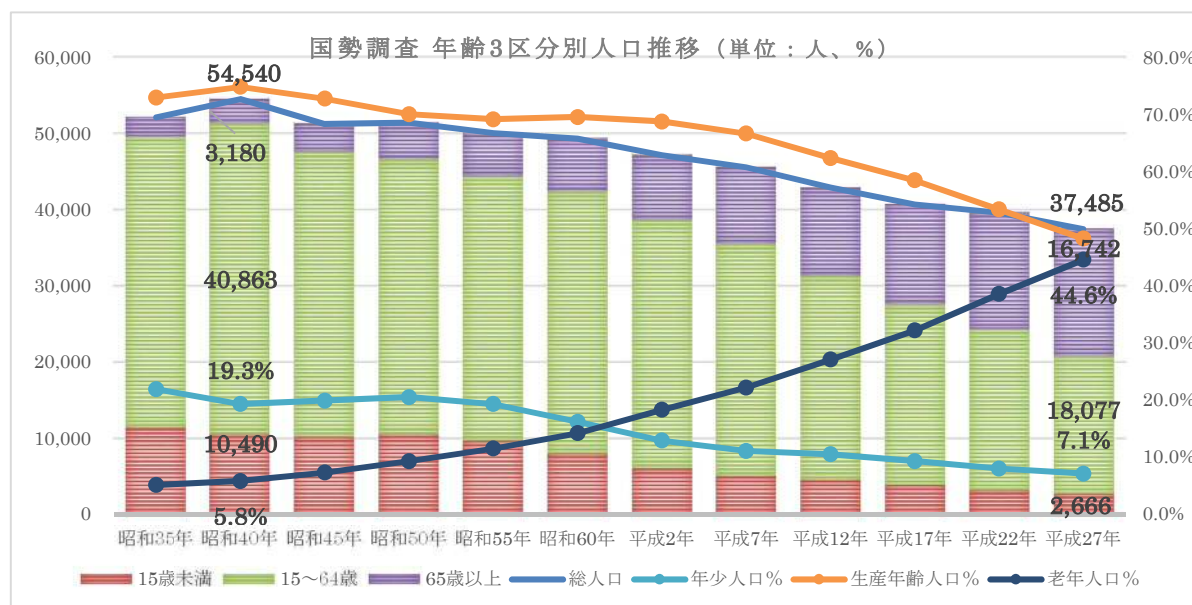


熱海市における社会及び教育の現状

(1) 人口減少にともなう人口構造の変化と少子高齢化の現状

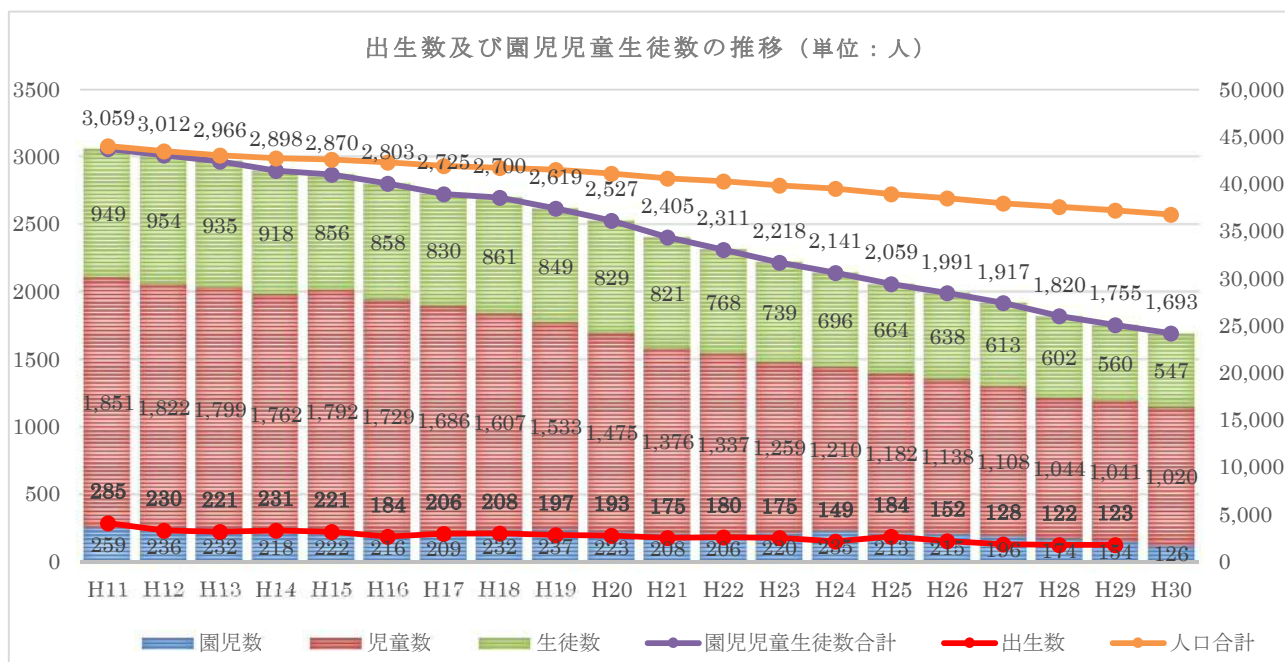
■ 本市の人口は、昭和 40 年の 54,540 人をピークに一貫して減少傾向にある。平成 29 年には、37,196 人となり、ピーク時と比較して約 17,000 人減少している。また、国勢調査に基づく年齢 3 区分に人口推移から見た人口構造の変化については、15 歳未満人口（年少人口）では、昭和 40 年の 10,490 人から平成 27 年には、2,666 人まで減少している。一方、65 歳以上人口（老年人口）は、昭和 40 年の 3,180 人から 16,742 人までに増加しており、人口減少にともないそれぞれの割合は、平成 27 年において、年少人口割合が 7.1%、老年人口割合が 44.6%と減少、増加している。あわせて、15～64 歳人口（生産年齢人口）は、年少人口と同様に、昭和 40 年の 40,863 人から平成 27 年 18,077 人にまで減少している。これらの構造変化にともない、消費や雇用をはじめとする市内経済や町内会活動やその他の地域活動などの地域コミュニティ、さらには、校区によっては、複式学級の増加など学校教育において弊害となる事象が起きている。



(2) 出生数及び児童生徒数の推移

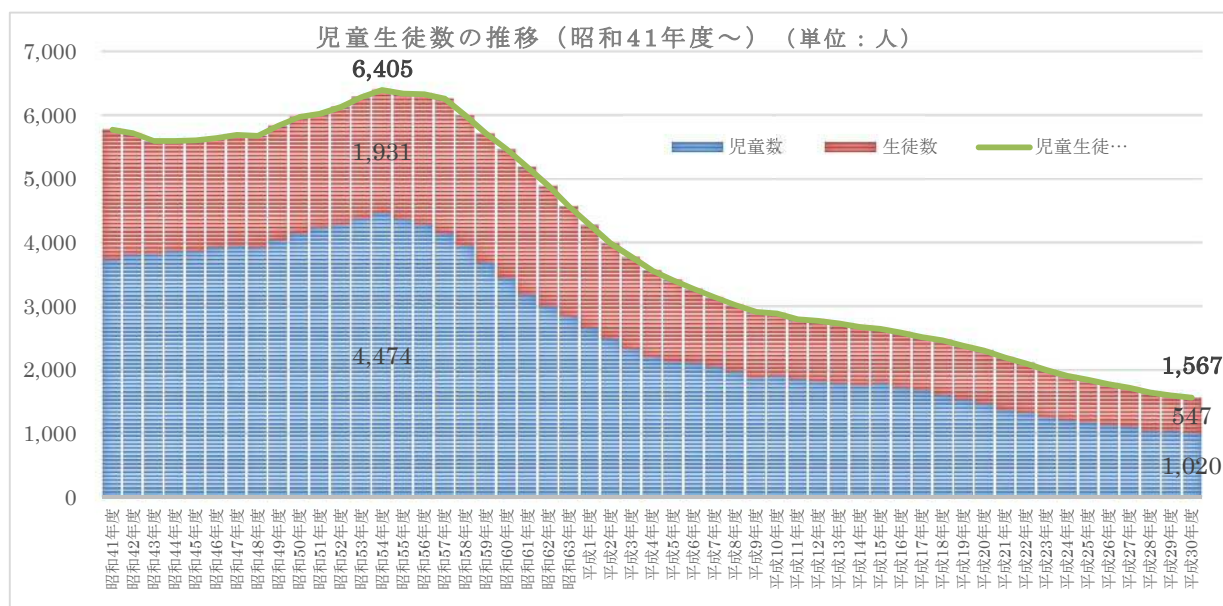
■ 児童生徒数と相関関係にある出生数の推移を見ると、平成 11 年度には 285 人の出生であったが、平成 29 年度には 123 人にまで減少している。特に平成 27 年度以降 120 人台にまで急激に減少している。また、出生数の減少は、児童生徒数はもとより、共働きなど保護者の就労状況とも関係し、幼稚園児の減少に歯止めがかからな

い状況となっている。



(3) 公立小中学校の児童、生徒数の推移

■ 公立小中学校における児童、生徒数の推移は、主幹産業である観光業の著しい成長にともなう、昭和40年の人口ピーク及び昭和46年から昭和49年における第2次ベビーブームを反映して、昭和54年に児童生徒総数6,405人をピークに、一貫して減少し続けている。平成30年5月1日現在の児童生徒数は、1,567人となっており、ピーク時と比較して、4,838人減少している。



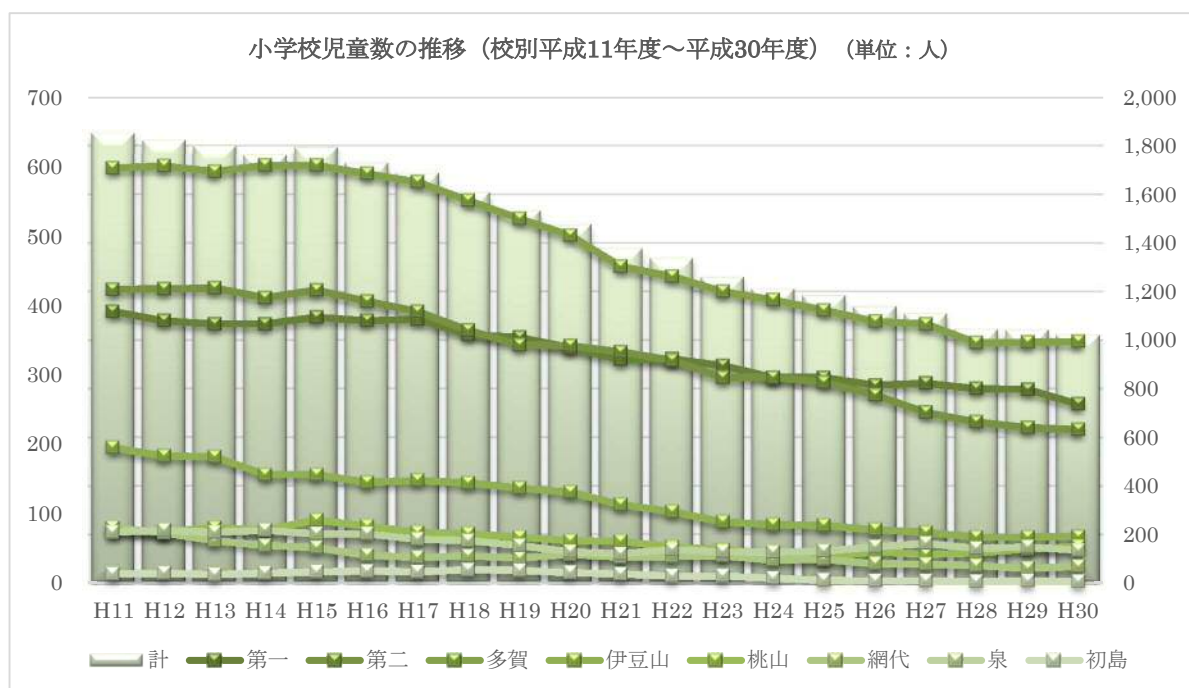
資料 3

■ 過去 20 年間の公立小中学校、校別児童生徒数の推移、公立小学校では、平成 11 年度 1,851 人が平成 30 年度 1,020 人、44.9%の減少となっている。校別における減少幅で比較すると、初島小学校が 11 人、84.6%の減少となっており、次いで、網代小学校が 56 人、70.0%の減少となっている。その他、伊豆山小学校 128 人、65.6%の減、第二小学校 202 人、47.8%の減、多賀小学校 250 人、41.8%の減、泉小学校 26 人、35.6%の減、第一小学校 133 人、34.0%の減、桃山小学校 25 人、32.1%の減となっている。また、公立中学校では、平成 11 年度 949 人が平成 30 年度 547 人、42.4%の減少となっている。各校の統廃合の状況を踏まえた推移で見ると、熱海中学校が 248 人、44.3%の減、多賀中学校が 148 人、41.6%の減、初島中学校が 1 人、42.4%の減、泉中学校が 5 人、16.7%の減となっている。

小学校児童数の推移（校別平成 11 年度～平成 30 年度）

（単位：人）

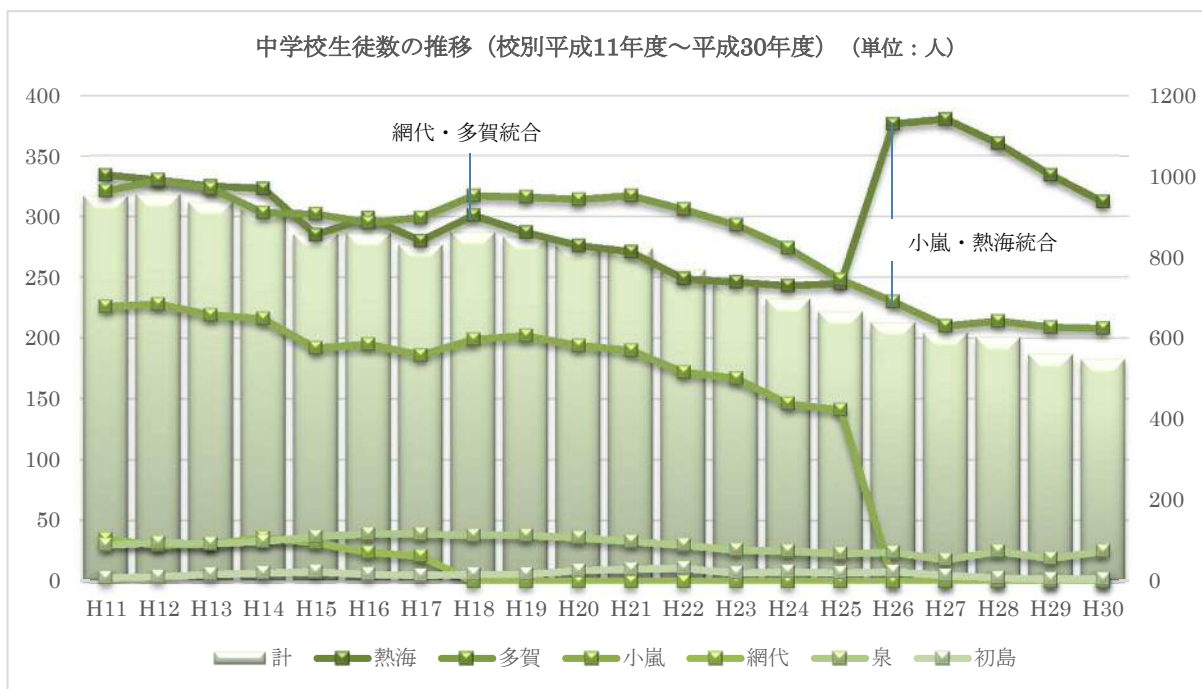
年度	第一	第二	多賀	伊豆山	桃山	網代	泉	初島	計
H11	391	423	598	195	78	80	73	13	1,851
H12	378	424	601	183	74	72	76	14	1,822
H13	373	425	593	182	80	61	73	12	1,799
H14	373	411	602	156	76	54	76	14	1,762
H15	383	422	602	156	91	51	71	16	1,792
H16	378	406	590	145	82	40	71	17	1,729
H17	380	391	578	148	73	37	63	16	1,686
H18	358	364	551	144	71	39	61	19	1,607
H19	354	343	525	137	66	36	54	18	1,533
H20	339	342	501	131	61	41	45	15	1,475
H21	322	333	456	113	60	37	42	13	1,376
H22	323	321	442	103	52	38	48	10	1,337
H23	313	296	420	88	48	39	45	10	1,259
H24	296	296	408	84	42	33	44	7	1,210
H25	296	289	393	83	37	34	46	4	1,182
H26	285	271	377	77	45	28	52	3	1,138
H27	288	246	373	73	41	27	57	3	1,108
H28	280	232	346	66	43	25	50	2	1,044
H29	279	224	347	66	49	21	52	3	1,041
H30	258	221	348	67	53	24	47	2	1,020
H11-H30	▲133	▲202	▲250	▲128	▲25	▲56	▲26	▲11	▲831
▲%	34.0%	47.8%	41.8%	65.6%	32.1%	70.0%	35.6%	84.6%	44.9%



中学校生徒数の推移（校別平成 11 年度～平成 30 年度）

（単位：人）

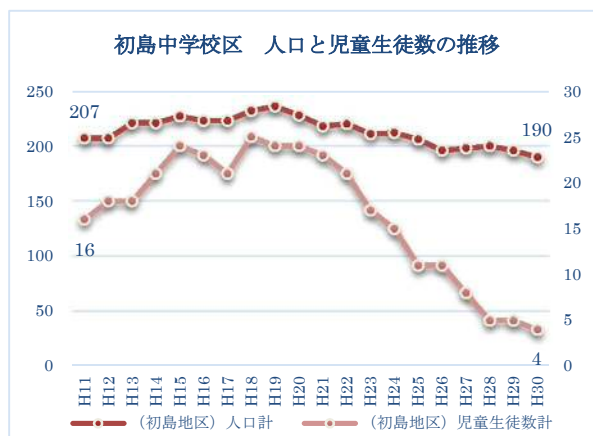
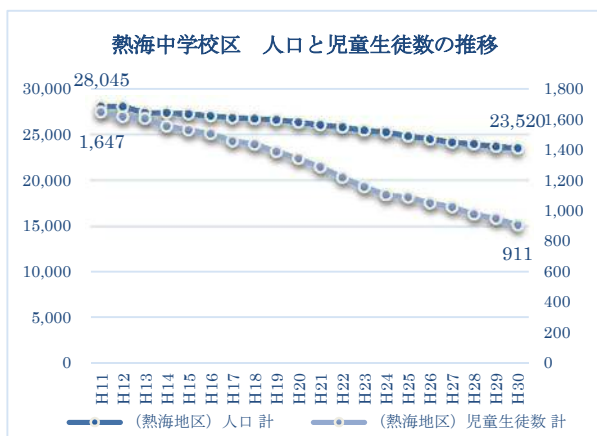
年度	熱海	多賀	小嵐	網代	泉	初島	計
H11	334	321	226	35	30	3	949
H12	330	330	228	30	32	4	954
H13	325	323	219	31	31	6	935
H14	323	303	216	36	33	7	918
H15	285	302	192	32	37	8	856
H16	299	295	195	24	39	6	858
H17	280	299	186	21	39	5	830
H18	301	317	199	0	38	6	861
H19	287	316	202	0	38	6	849
H20	276	314	194	0	36	9	829
H21	271	317	190	0	33	10	821
H22	249	306	172	0	30	11	768
H23	246	293	167	0	26	7	739
H24	243	274	146	0	25	8	696
H25	245	248	141	0	23	7	664
H26	376	230	0	0	24	8	638
H27	380	210	0	0	18	5	613
H28	360	214	0	0	25	3	602
H29	334	209	0	0	19	2	560
H30	312	208	0	0	25	2	547
H11-H30	▲248	▲148			▲5	▲1	▲402
▲%	44.3%	41.6%			16.7%	33.3%	42.4%

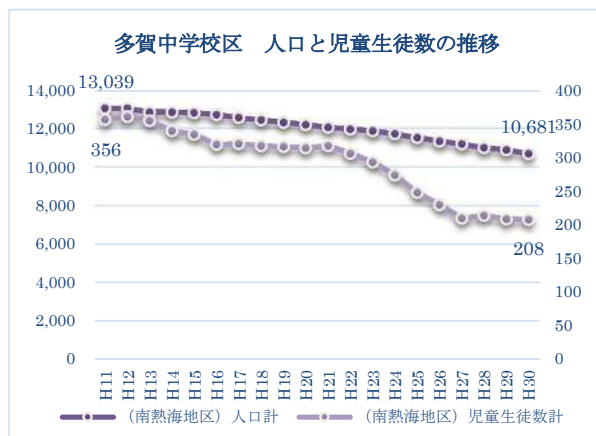
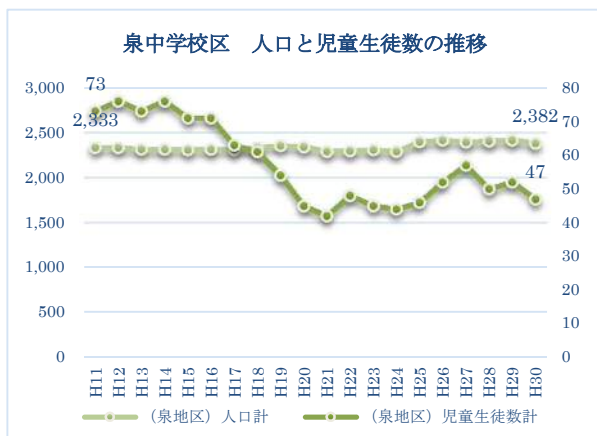


(4) 地域別（中学校区）人口と児童生徒数の推移

■ 市内中学校区における地域別人口の推移と児童生徒数の状況は、それぞれの中学校区における人口及び児童生徒数は、一貫して減少している。熱海中学校区においては、平成11年人口が28,045人、平成30年人口が23,520人と4,525人、16.1%減少しているが、児童生徒数に関しては、平成11年1,647人に対し、平成30年は911人であり736人、44.7%と大幅に減少している。また、多賀中学校区では、平成11年人口が13,039人、平成30年人口が10,681人、2,358人、18.1%減少しており、児童生徒数は、平成11年が356人に対し、平成30年が208人であり、148人、58.4%と半数以上が減少している状況となっている。

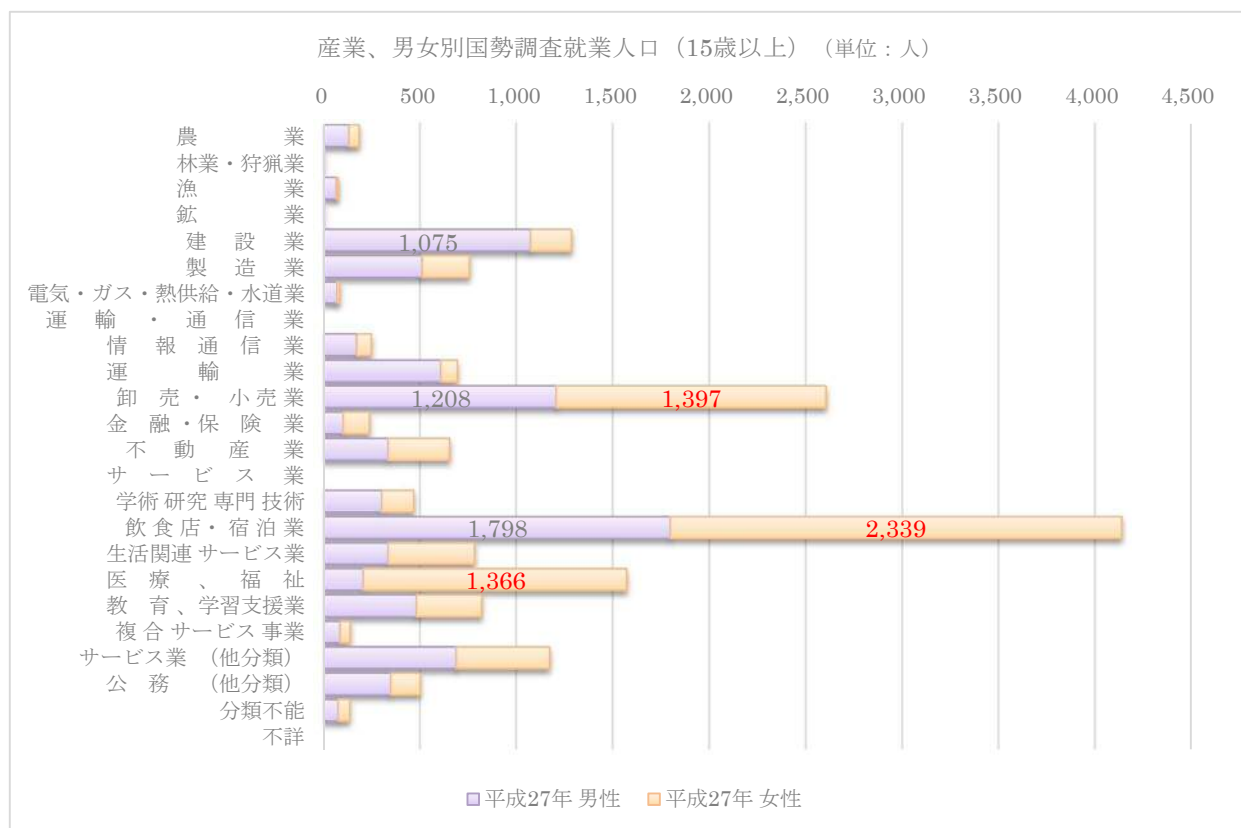
(単位：人)





(5) 本市の就業状況の推移

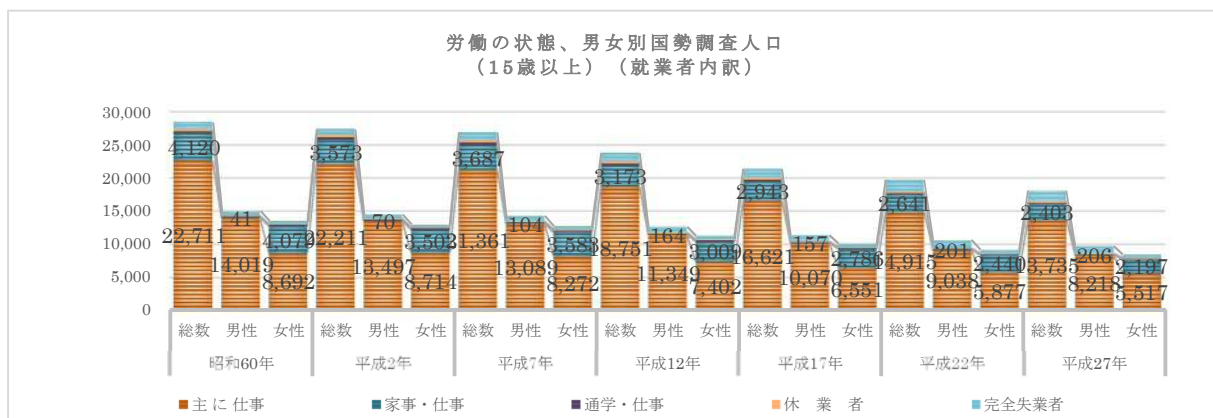
■ 平成 27 年国勢調査における、産業、男女別就業人口は、就業者総数 16,566 人で、大分類によるその内訳は、第 1 次産業 265 人、第 2 次産業 2,045 人、第 3 次産業 14,120 人となっている。本市の産業構造を反映し、飲食店・宿泊業が最も置く 4,137 人、次いで卸売・小売業 2,605 人となっており、就業者総数の 40.7%を占めている。男女別に見ると、男性では、飲食店・宿泊業が最も多く 1,798 人、次いで卸売・小売業 1,208 人、建設業 1,075 人となっている。女性では、飲食店 2,339 人が最も多く、次いで卸売・小売業 1,397 人、医療、福祉 1,366 人となっている。



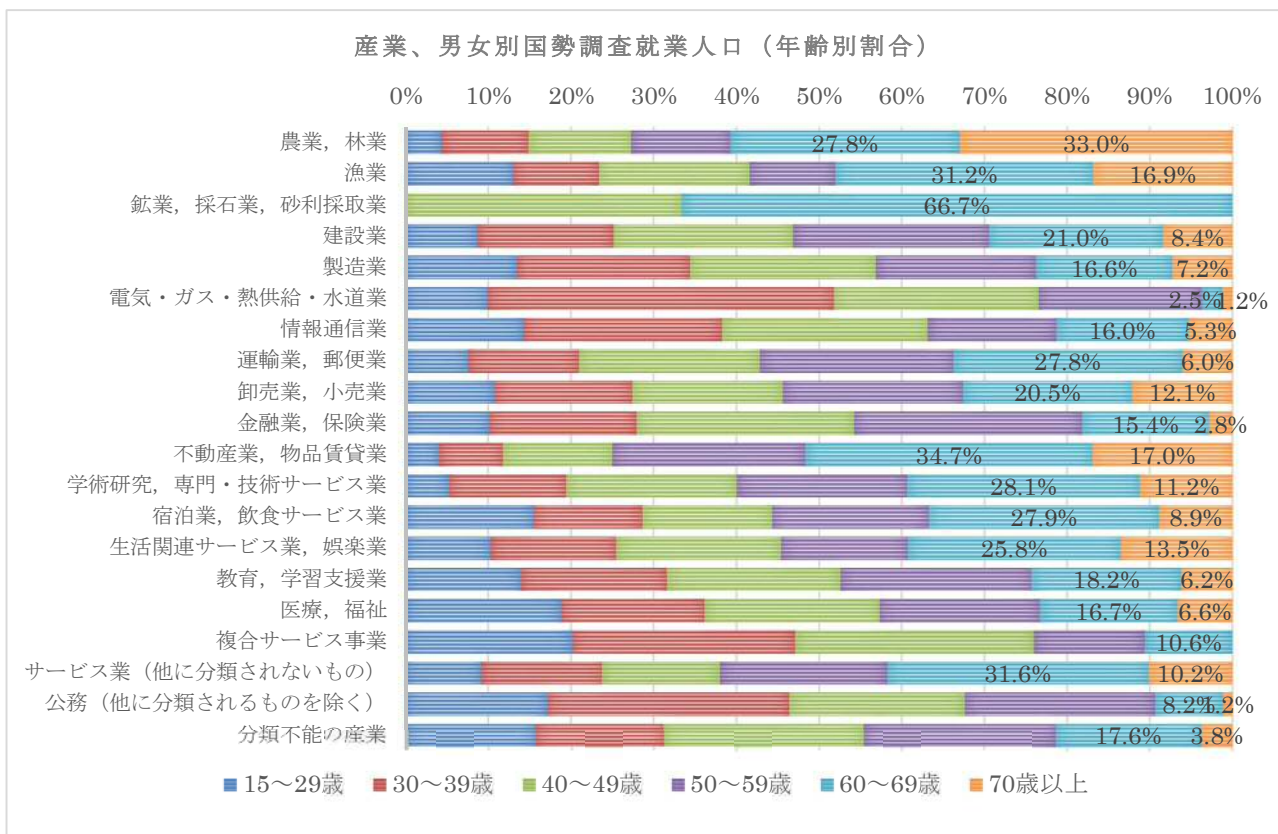
資料3

■ 昭和 60 年以降の国勢調査における男女別の労働の状態を見ると、主に仕事としている男性は、昭和 60 年には 14,019 人であったが平成 27 年には 8,218 人、5,801 人減少している。また、女性は、主に仕事、家事・仕事、家事・仕事が昭和 60 年に 12,771 人であったが平成 27 年には、7,714 人、5,057 人減少している。

(単位：人)

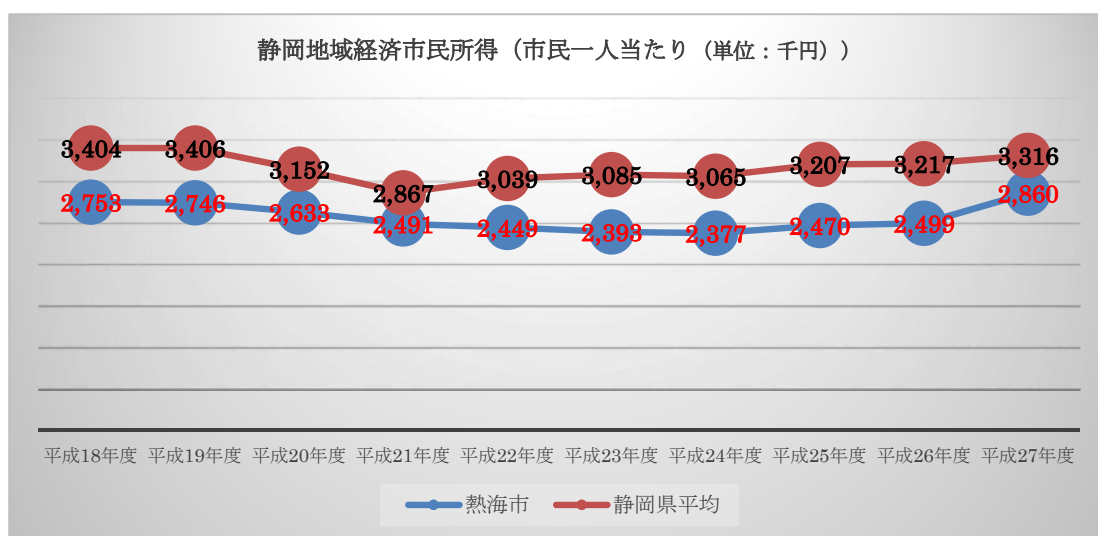


■ 平成 22 年国勢調査における、就業者の年齢別就業状況からは、就業者の割合の多い、宿泊業、飲食サービス業、卸売業、小売業において、3割以上を 60 歳以上の就業者が占めている状況である。

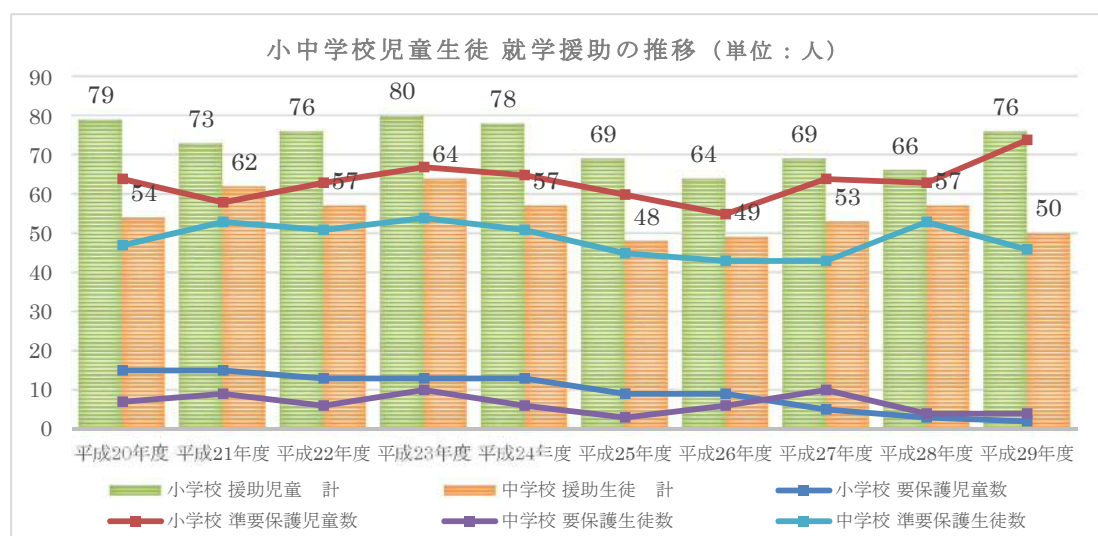


(6) 市民の所得状況と子供の貧困など経済状況

- 本市の市民所得状況について、毎年公表されている静岡地域経済市民所得では、伊豆半島地域の所得水準は、平成 27 年度において県東部、中部、西部と比較すると、伊豆半島地域の県民一人当たりの所得額が 2,911 千円で、東部地域は、3,485 千円、中部地域は、3,375 千円、西部地域は、3,321 千円であり、400 千円から 600 千円程度所得水準が低い状況である。この傾向は、平成 27 年度に限らず、各年度概ね同様の傾向となっている。



- 本市における要保護・準要保護児童及び生徒に対する就学援助の状況は、各年度で増減変動はあるものの、平均して小学校児童では約 70 名、中学校生徒は約 55 名に対して援助を行っている。

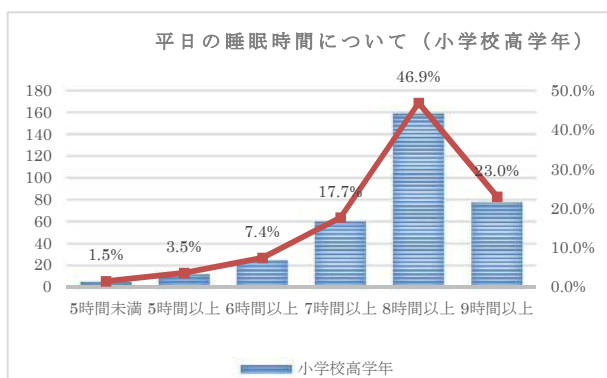


(7) 児童生徒の生活実態について

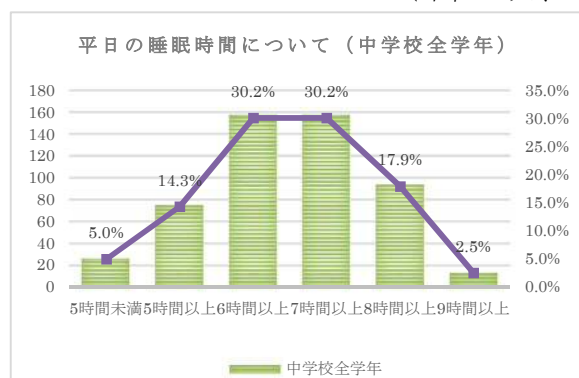
毎年度、市教育委員会で実施している、小学校高学年児童及び中学校全学年を対象とした生活実態調査の結果は以下のとおりです。

- 平成 30 年度調査における児童生徒の睡眠時間については、小学校高学年児童では、8 時間以上 9 時間未満が最も多く 46.9%となっており、9 時間以上が次いで 23.0%となっている。中学校全学年調査では、6 時間以上 7 時間以上 8 時間未満が最も多く 30.2%となっており、次いで 8 時間以上 9 時間未満 17.9%となっている。

(単位：人、%)



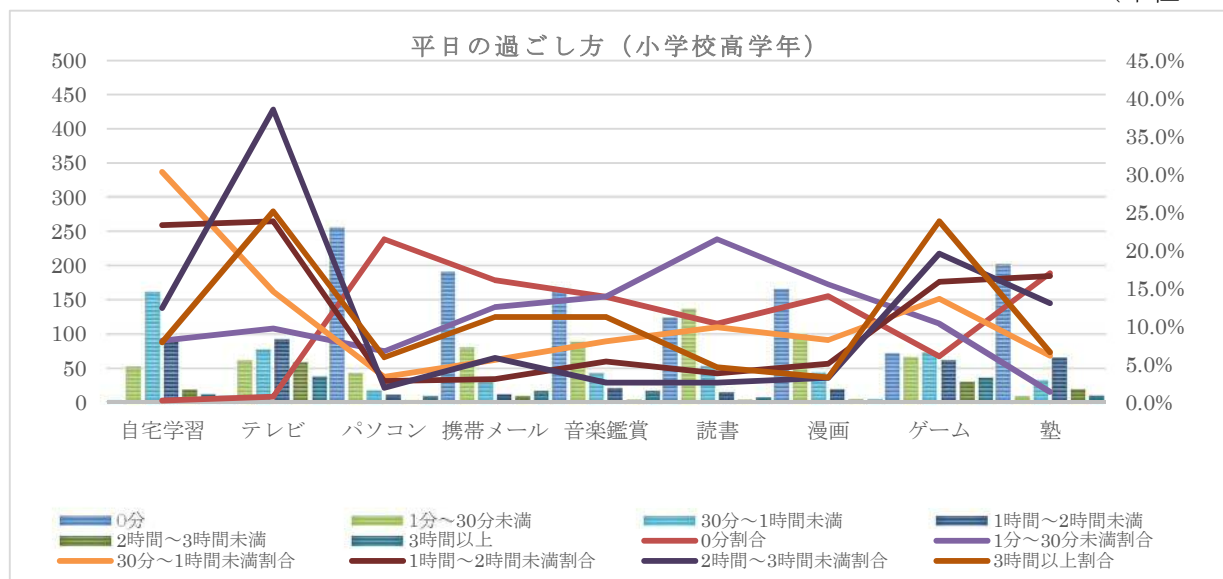
n=339



n=524

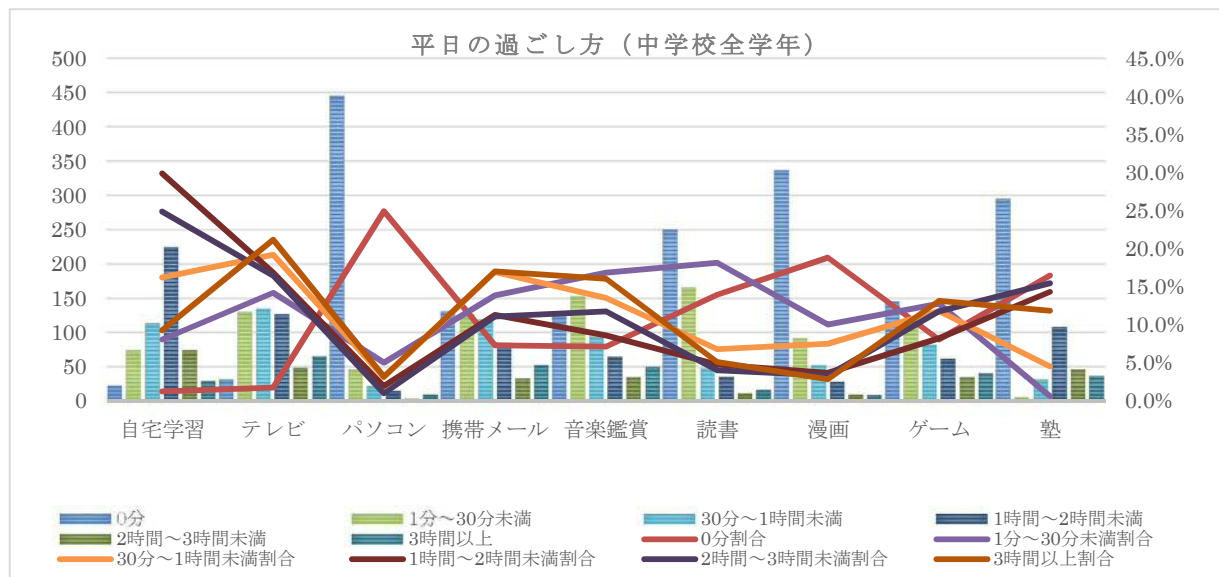
- 同調査での小学校高学年における平日の過ごし方で、30 分以上 2 時間未満を見ると、宿題等の自宅学習 65%、テレビ 50%となっており、次いでゲームが 40%、通塾が 29%となっている。また、2 時間以上において、テレビ 28%、ゲーム 20%と他の過ごし方よりも多くなっている。

(単位：%)



資料3

■ 同調査での中学校全学年における平日の過ごし方では、30分以上2時間未満を見ると、宿題等の自宅学習63%、次いでテレビ52%となっており、また、携帯メールが38%、音楽鑑賞、ゲームが30%となっている。また、2時間以上においても、前述の項目が高い割合を示している。(単位：%)



■ 宿題についての設問のうち、宿題の量に関する調査では、小学校高学年、中学校全学年ともちょうど良いと回答した児童生徒の割合が最も多く、以下、設問の強弱どおりの割合を示している。(単位：%)



n=339

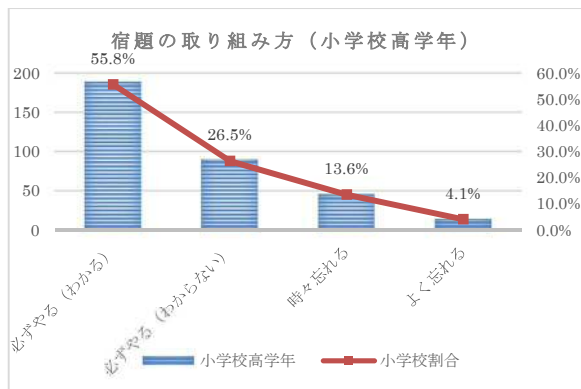


n=540

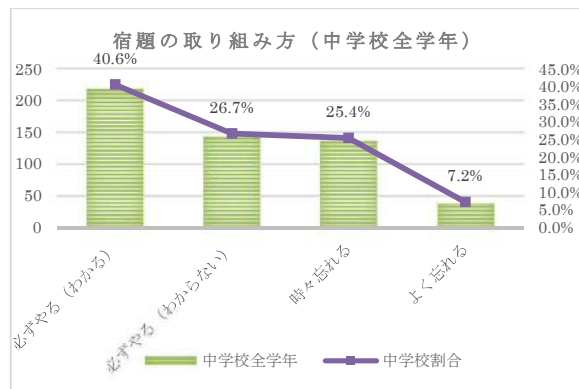
■ また、宿題の取り組み方では、小学校高学年において、必ずやる(わからないところは少ない)が55.8%と最も多く、次いで必ずやる(わからないところが多い)26.6%となっている。中学校全学年では、必ずやる(わからないところは少ない)が40.6%と最も多く、次いで必ずやる(わからないところが多い)26.7%、時々忘れる25.4%となっている。

資料3

(単位：%)



n=339

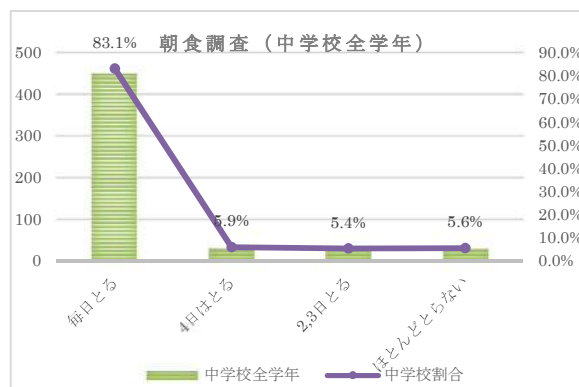


n=539

- 朝食調査については、児童生徒とも毎日とるが 80%以上であり、他の設問は 10%以下の回答となっている。ただし、ほとんどとらないと回答した小学校高学年が 3.8%、中学校全学年が 5.6%存在している。(単位：%)



n=339



n=540

- 学習についての設問のうち、学習理解度の設問では、小学校高学年は、まあまあできているとの回答が 40.1%と最も多く、次いでよくできている (どの教科の学習もよくできている) 29.5%、一部わからない (わからない教科 (部分) もある) 26.1%と続いている。また、わからないが多い (わからない教科 (部分) が多い) が 5.3%存在する。中学校全学年では、一部わからない (わからない教科 (部分) もある) が 37.4%、まあまあできる 36.9%となっており、よくわかる (どの教科の学習もよくできている) が 11.1%、わからないが多い (わからない教科 (部分) が多い) が 9.8%となっている。

資料3

(単位：%)



n=339



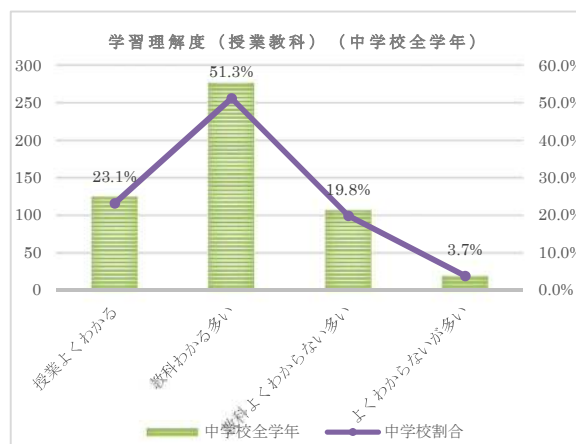
n=514

■ 授業及び教科の理解度の調査について、小学校高学年では、教科わかる多い（よくわかる教科のほうが多い）が 56.9%、次いで授業よくわかる（授業の内容がよくわかる）29.5%となっている。また、教科よくわからない多い（よくわからない教科のほうが多い）が 10.6%存在している。中学校全学年では、教科わかる多い（よくわかる教科のほうが多い）が 51.3%、次いで授業よくわかる（授業の内容がよくわかる）23.1%となっている。また、教科よくわからない多い（よくわからない教科のほうが多い）が 19.3%、よくわからないが多い（よくわからないことが多い）が 3.7%存在している。

(単位：%)



n=339



n=529

■ 学校生活の楽しさの設問において、小学校高学年及び中学校全学年で同様の傾向を示しており、楽しい（学校が楽しいと感じる）児童生徒が両者最も多く、次いでまあ楽しい（どちらかというとも楽しい）の順となっている。また、学校は楽しくないと思っている児童は、1.5%、生徒は 3.7%存在している。

資料 3

(単位：%)



n=339

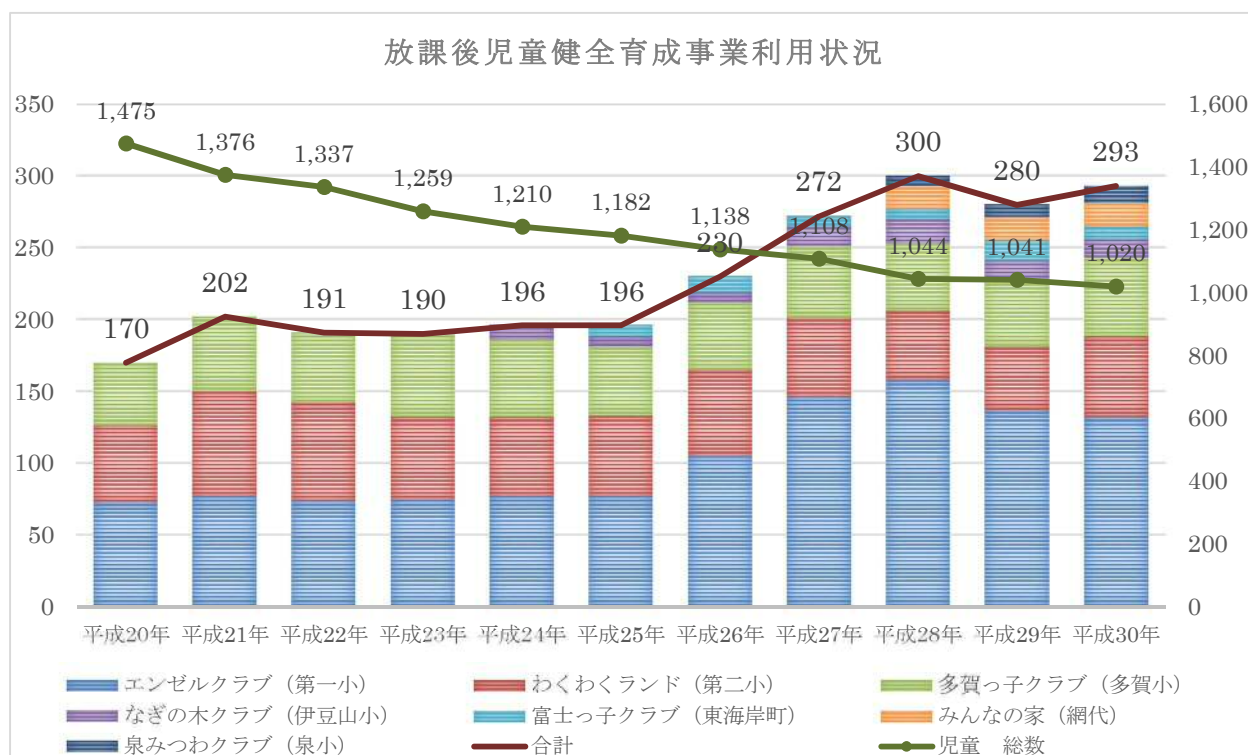


n=530

(8) 放課後児童健全育成事業の状況

昼間保護者のいない家庭の小学校児童（放課後児童）に対し育成・指導、遊びによる発達の助長などに係るサービスを行い、児童の健全育成を図るための放課後児童健全育成事業の利用状況は、平成27年度の制度改正による対象児童の拡充及びクラブの新規開設により増加しており、その後、300人程度で推移している。

(単位：人)



(9) 学力・学習状況調査について

【全国学力・学習状況調査】

全国学力・学習状況調査 文部科学省が児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、授業内容など教育の改善に生かすため、全国の小学6年と中学3年を対象に毎年実施している。学力低下の懸念を受け、2007年度に43年ぶりに全員参加方式で再開された。教科は国語と算数・数学で、理科は3年ごと。19年度（平成31年度）からは中3英語も3年に1回程度行う方針。平均正答率は、序列化や過度な競争を防ぐため、前回から整数値で公表している。

■ 平成27年度～平成30年度全国学力・学習状況調査の結果について

<学力状況調査>

～熱海市教育委員会、熱海市全国学力・学習状況調査検証委員会

全国の平均正答率と比べて熱海市の平均正答率を比較して（満点は100ポイント）、次の標記で表す。

◎高い：プラス3ポイントを上回る、○やや高い：プラス1から3ポイント、同じ程度：±1ポイント、△やや低い：-1から-3ポイント、×低い：-3ポイントを下回る

※ 国語A：主として知識が身につけているかを調べる問題。

※ 国語B：一般に「応用問題」といわれる、活用する力を調べる問題。

※ 算数（数学）A：主として知識が身につけているかを調べる問題。

※ 算数（数学）B：一般に「応用問題」といわれる、活用する力を調べる問題。

■ 学力状況調査（小学校）

教科	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科
平成27年度	◎	○	◎	◎	○
平成28年度	○ ↓	○ -	同じ程度 ↓	同じ程度 ↓	-
平成29年度	▲ ↓	△ ↓	△ ↓	△ ↓	-
平成30年度	△ ↑	同じ程度 ↑	○ ↑	同じ程度 ↑	同じ程度 ↓

※ 理科3年に一度

■ 学力状況調査（中学校）

教科	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	理科
平成27年度	同じ程度	○	同じ程度	○	△
平成28年度	同じ程度 -	○ -	同じ程度 -	△ ↓	-
平成29年度	○ ↑	○ -	◎ ↑	◎ ↑	-
平成30年度	同じ程度 ↓	○ -	同じ程度 ↓	○ ↓	○ ↑

※ 理科3年に一度

＜生活習慣や学習環境等調査＞

～熱海市教育委員会、熱海市全国学力・学習状況調査検証委員会

学力調査とあわせて、対象児童生徒に対して、自己肯定感や学習について、さらには、生活習慣等の調査について、特徴的な状況を記載する。

■ 生活習慣や学習環境等調査（小学校）

（平成 27 年度）

- ・ 自尊感情や自己肯定感の高い子が多く「人の役に立つ人間になりたい」「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」と答えた児童は、全国平均より上回っている。
- ・ 自分で計画を立て勉強しているは、全国平均を下回っている。
- ・ 読書量については改善が見られ、「読書が好きだ」と答えた児童は全国平均より下回っている。

（平成 28 年度）

- ・ 自尊感情や自己肯定感の高い子が多く、友達の意見を最後までしっかり聞くなど、思いやりの気持ちが育っている。
- ・ 昨年同様、自分で計画を立て勉強しているは、全国平均を下回っている。
- ・ 読書量については、大幅に全国平均を下回っている。

（平成 29 年度）

- ・ 自尊感情や自己肯定感の高い子が多く、思いやりの気持ちが育っている。
- ・ 問題を解く時間が十分だったと感じた子どもは、全国平均を下回っている。

（平成 30 年度）

- ・ 自己肯定感の高い子が多く、将来の夢や目標を持って生活するこの割合が高い。
- ・ 問題を解く時間が十分だったと感じた子どもは、全国平均を下回っている。

※ 小学校、中学校共通検証事項

- ・ 将来の夢や目標を持ち、将来のことをしっかり考えている。
- ・ 就寝時間については、ここ数年改善が見られたが、家庭での生活リズム（寝る時間、テレビ、朝食など）が正しく取れていない結果となっている。

■ 生活習慣や学習環境等調査（中学校）

（平成 27 年度）

- ・将来の夢や目標をもっていると答える生徒も増え、授業にも積極的に参加している。わからないことも先生や友達に尋ねて解決しようとしている。
- ・携帯電話やスマートフォンを使用している時間が全国平均より大きく上回っている。
- ・読書量は、全国平均より上回っているが、地域や社会問題に対する関心は全国より低く、新聞を読んでいる生徒も少ない。

（平成 28 年度）

- ・集団生活の大切さを感じている生徒も多く、協力して行事を成し遂げることに喜びを感じている生徒の割合も全国平均より高い。
- ・携帯電話やスマートフォンを使用している時間が全国平均より上回っている。
- ・読書量は、全国平均を上回り、「読書が好きだ」と答える生徒も多い。

（平成 29 年度）

- ・宿題にしっかりと取り組んでいる生徒は全国平均を上回っている。
- ・携帯電話やスマートフォンを使用している時間が全国平均より上回っている。

（平成 30 年度）

- ・毎日同じ時刻に起床し、朝食を食べている子の割合が、全国平均を上回っている。
- ・学校の授業以外で平日に勉強する時間が、全国平均を下回っている。

※ 小学校、中学校共通検証事項（再掲）

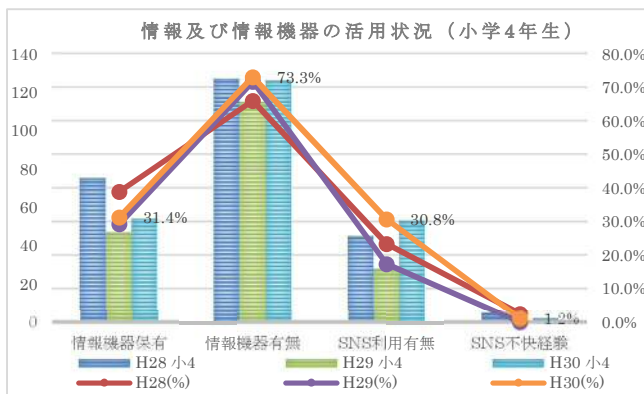
- ・将来の夢や目標を持ち、将来のことをしっかり考えている。
- ・就寝時間については、ここ数年改善が見られたが、家庭での生活リズム（寝る時間、テレビ、朝食など）が正しく取れていない結果となっている。

（10） 情報及び通信機器の活用状況調査（携帯、スマホ、ネット環境等）

平成 28 年度から平成 30 年度における、小学校 4 年生～6 年生及び中学校全学年の携帯電話、スマートフォンの保有の有無及び同等機器の保有状況やラインやフェイスブックなどの SNS の利用経験、SNS の利用経験において不快な経験の有無についての調査結果は次のとおりである。

■ 小学校 4 年生の状況

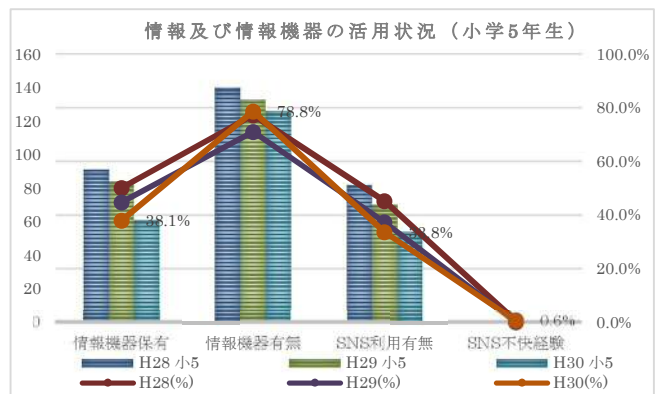
(単位: %)



携帯電話等の保有はほぼ横ばいで推移している。しかしながら、インターネットに接続可能なパソコン及びゲーム機器の保有状況は高めに推移している。また、SNS利用の割合が一定程度ある。
 ※ SNS 利用で不快経験がある割合は、全国平均 3.8% (H30) と比較して低い状況となっている。

■ 小学校 5 年生の状況

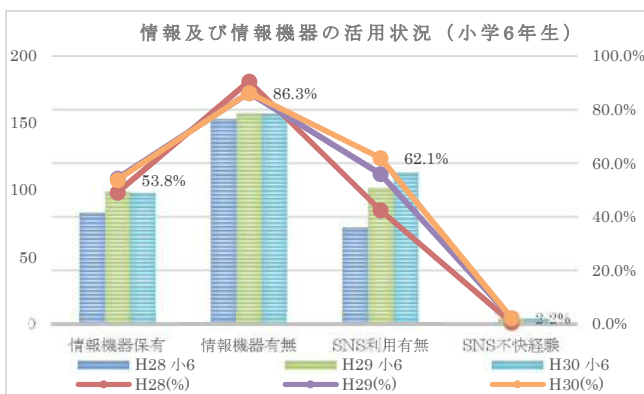
(単位: %)



携帯電話、スマートフォンの保有は、年々増加傾向にある。あわせて、インターネット接続可能機器の保有も同様の傾向を示している。また、SNS 利用は、平成 30 年度において高い割合となっている。
 ※ SNS 利用で不快経験がある割合は、全国平均 1.9% (H30) と比較して低い状況となっている。

■ 小学校 6 年生の状況

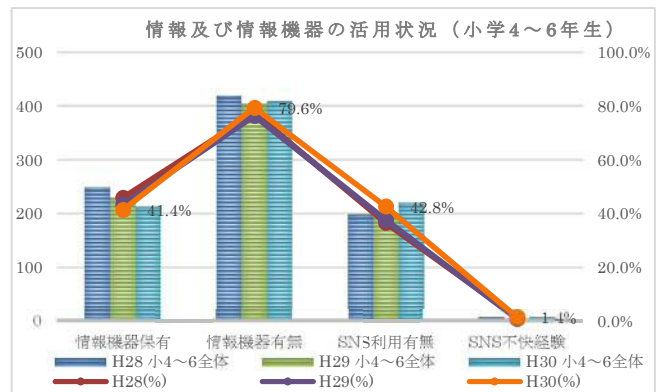
(単位: %)



携帯電話等の保有は、ほぼ横ばいで推移している。ただし、インターネット接続可能機器の保有は、高い割合で推移している。また、SNS 利用については、半数強が利用し、利用により不快経験のある割合も一定程度ある。
 ※ SNS 利用で不快経験がある割合 全国平均 3.5% (H30)

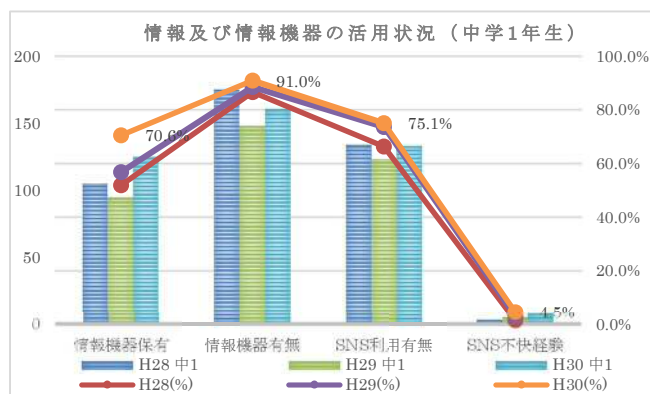
■ 小学 4～6 年生全体の状況

(単位: %)



小学 4～6 年生全体では、携帯電話等の保有は、横ばいもしくは減少傾向にある。全国平均 29.9% (H30) と比較すると 41.4% であることから、保有状況は大幅に高い割合となっている。SNS の利用状況は、年々増加傾向にあり、これにともない、利用により不快経験を持つものもいる。ただし、全国平均 3.2% (H30) と比較すると 1.4% であり、低い傾向にある。

■ 中学校 1 年生の状況



携帯電話等の保有状況は、年々増加傾向にあり、平成 30 年度は大きく増加している。また、インターネット接続機器の保有、SNS 利用や利用による不快経験（全国平均 6.0%）は、増加傾向にある。

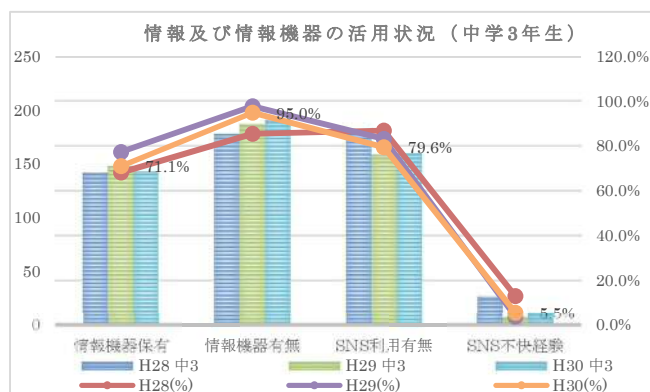
■ 中学校 2 年生の状況

（単位：%）



携帯電話等の保有状況等は、各年度で変動しているが平成 30 年度の状況は、他の学年と比較しても高いすうちを示している。また、SNS 利用による不快経験は、増加傾向にある。全国平均 9.8%

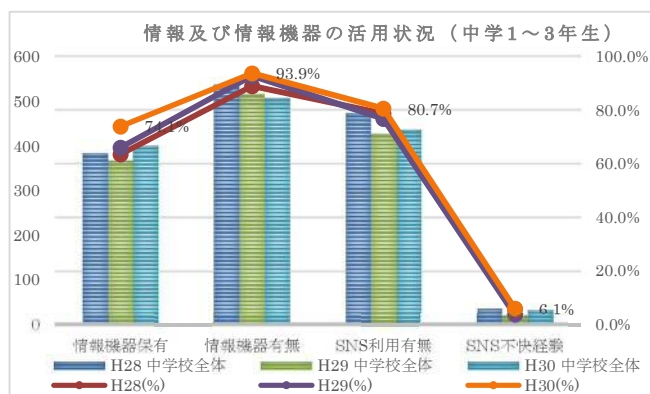
■ 中学校 3 年生の状況



携帯電話等の保有状況は、ほぼ横ばいである。平成 30 年度は大きく増加している。また、インターネット接続機器の保有、SNS 利用や利用による不快経験（全国平均 6.9%）についても同様の傾向となっている。

■ 中学 1～3 年生全体の状況

（単位：%）



中学 1～3 年生全体の状況は、すべての項目において増加傾向にある。携帯電話等の保有については、全国平均 58.1%（H30）と比較し、小学生と同様に高い状況となっている。また、SNS 利用による不快経験の割合は、全国平均 7.6%に対し、6.1%となっており、引く状況ではあるが、中学 2 年生の割合が高めに推移している状況が見られる。

（11） 特別支援学級児童生徒の推移（知的障害、自閉症、情緒障害、言語障害、発達障害、身体障害）

※ 特別支援教育就学奨励費負担金に基づく児童生徒数

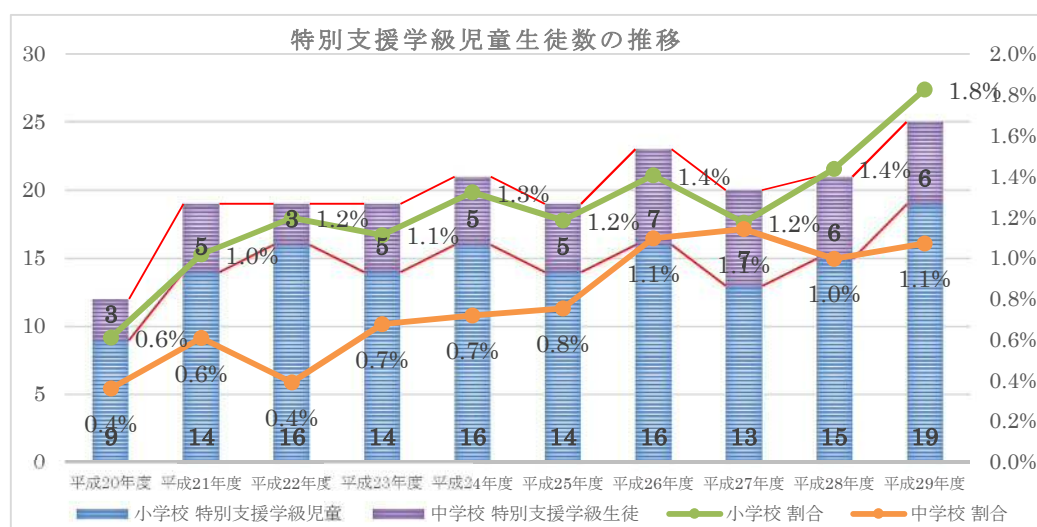
【特別支援教育就学奨励費負担金】

教育の機会均等の趣旨にのっとり、かつ、障害のある幼児、児童又は生徒の特別支援学校、小学校（義務教育学校の前期課程を含む。）若しくは中学校（義務教育学校の後期課程及び中等教育学校の前期課程を含む。）への就学の特別事情に鑑み、特別支援学校又は小学校若しくは中学校へ就学する児童等の保護者等の経済的負担を軽減するため、その負担能力の程度に応じ、就学のための必要な経費について、国がその経費の一部を負担等することにより、特別支援教育の普及奨励を図ることを目的としている。

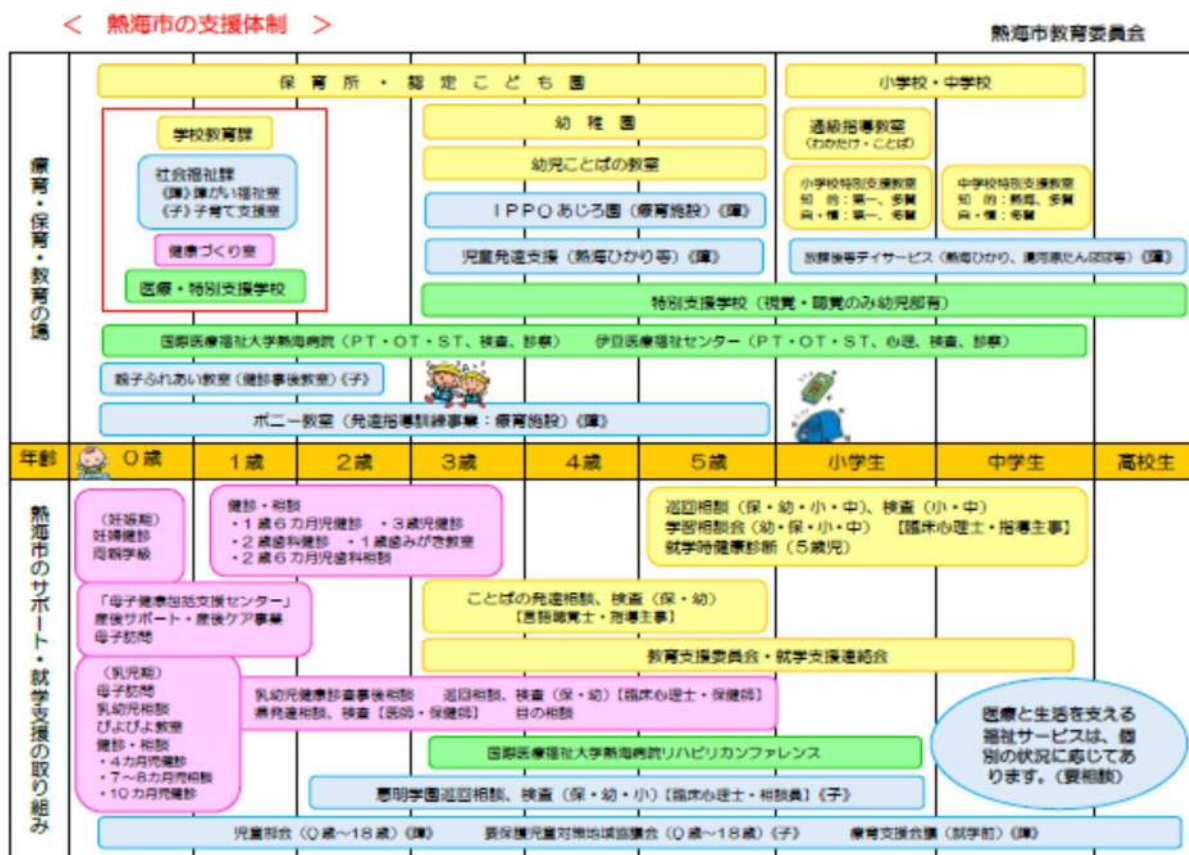
支援項目を基に国がその経費の2分の1を負担する。

- 国制度の特別支援教育就学奨励費負担金に基づく、情緒、知的、身体障害などの特別支援学級児童生徒数の推移は、小学校児童では、概ね5名前後で推移し、中学校生徒では、15名前後で推移している。なお、児童生徒数の減少により特別支援学級児童生徒数の割合は、増加傾向にある。

（単位：人、％）



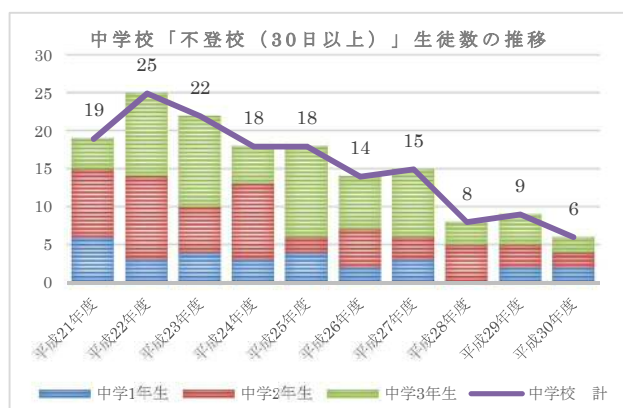
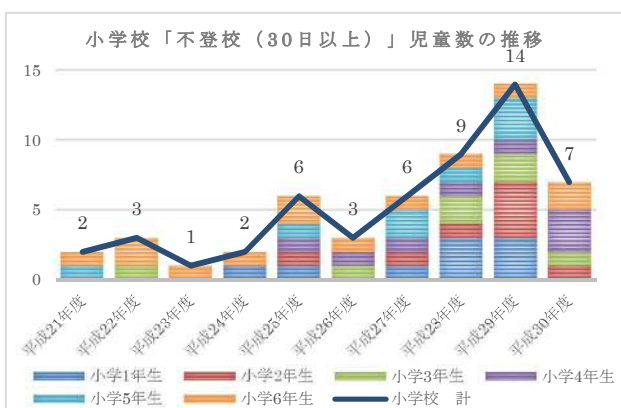
学校名	障害	特別支援学級通学区域
第一小学校	知的・情緒障害、自閉症	第一小学校、第二小学校、伊豆山小学校、桃山小学校、泉小学校
多賀小学校	知的・情緒障害、自閉症	多賀小学校、網代小学校
第二小学校	言語・発達障害	市内全域
熱海中学校	知的障害	熱海中学校、泉中学校
多賀中学校	知的・情緒障害、自閉症	熱海中学校、多賀中学校、泉中学校



(12) 小中学校「不登校(30日以上)」児童生徒数の推移

■ 30日以上の不登校児童生徒の推移について、小学校児童の状況は、平25年度以降増加傾向にある。一方、中学校生徒については、平成28年度以降減少している状況にある。

(単位：人)



(13) 教職員、学習支援員数の推移

■ 本務教員、本務職員及び学習支援員数の推移については、児童生徒数及び学校数の減少により、年々減少している。児童生徒一人当たりの教員数については、大

資料 3

きな変動はない。教員の減少にともない、学習支援員は小学校において増加傾向にある。

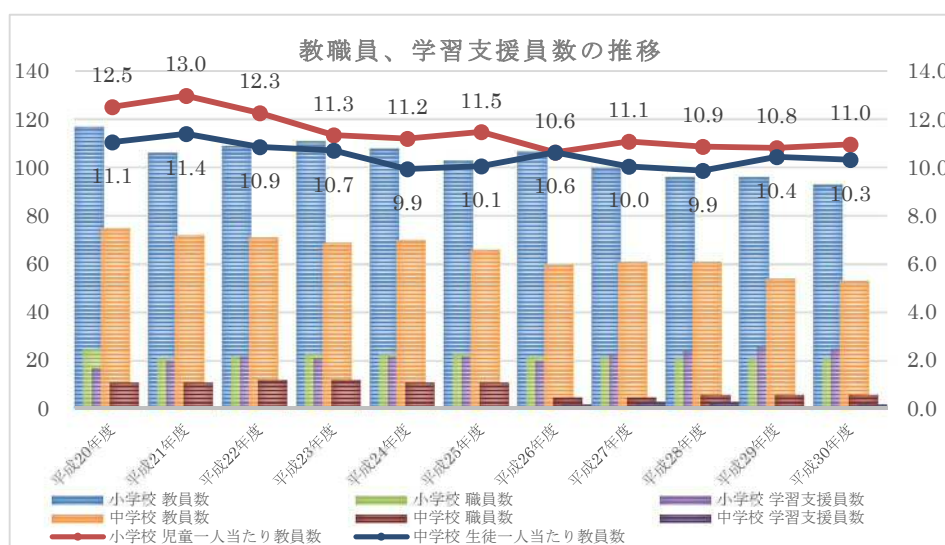
※ 教員（本務者）

校長、教頭、教諭、助教諭、養護教諭、養護助教諭、栄養教諭、講師

※ 職員（本務者）

事務職員、学校栄養職員、その他学校図書館事務員、養護職員、学校給食調理従業員、警備員、その他

(単位：人)



(単位：人)

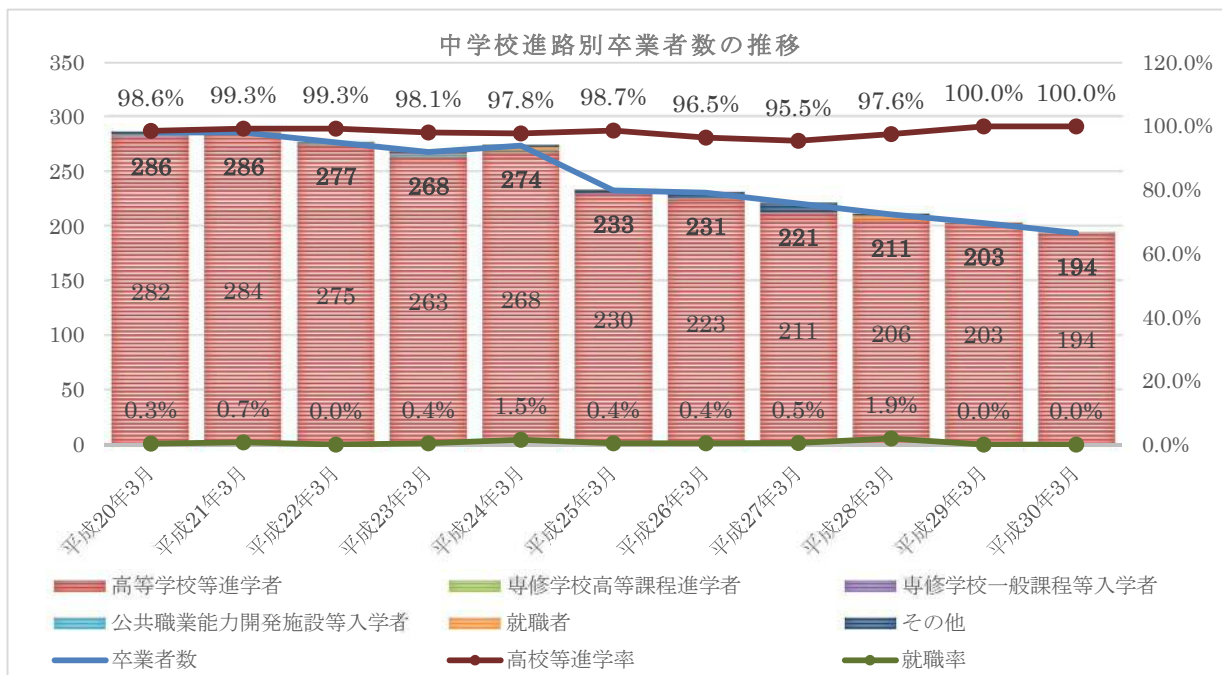
年度	小学校					中学校				
	教員数	児童一人当たり教員数	職員数	学習支援員数	児童数	教員数	生徒一人当たり教員数	職員数	生徒数	学習支援員数
平成20年度	117	12.5	25	17	1,465	75	11.1	11	829	0
平成21年度	106	13.0	21	20	1,376	72	11.4	11	821	0
平成22年度	109	12.3	22	22	1,337	71	10.9	12	771	0
平成23年度	111	11.3	23	21	1,259	69	10.7	12	739	0
平成24年度	108	11.2	23	22	1,210	70	9.9	11	696	0
平成25年度	103	11.5	23	22	1,182	66	10.1	11	664	1
平成26年度	107	10.6	22	20	1,138	60	10.6	5	638	2
平成27年度	100	11.1	22	23	1,108	61	10.0	5	613	3
平成28年度	96	10.9	21	24	1,044	61	9.9	6	602	3
平成29年度	96	10.8	21	26	1,039	54	10.4	6	564	1
平成30年度	93	11.0	21	25	1,019	53	10.3	6	547	2

(14) 中学校進路別卒業生数の推移 (参考：県立熱海高校進路別卒業生数)

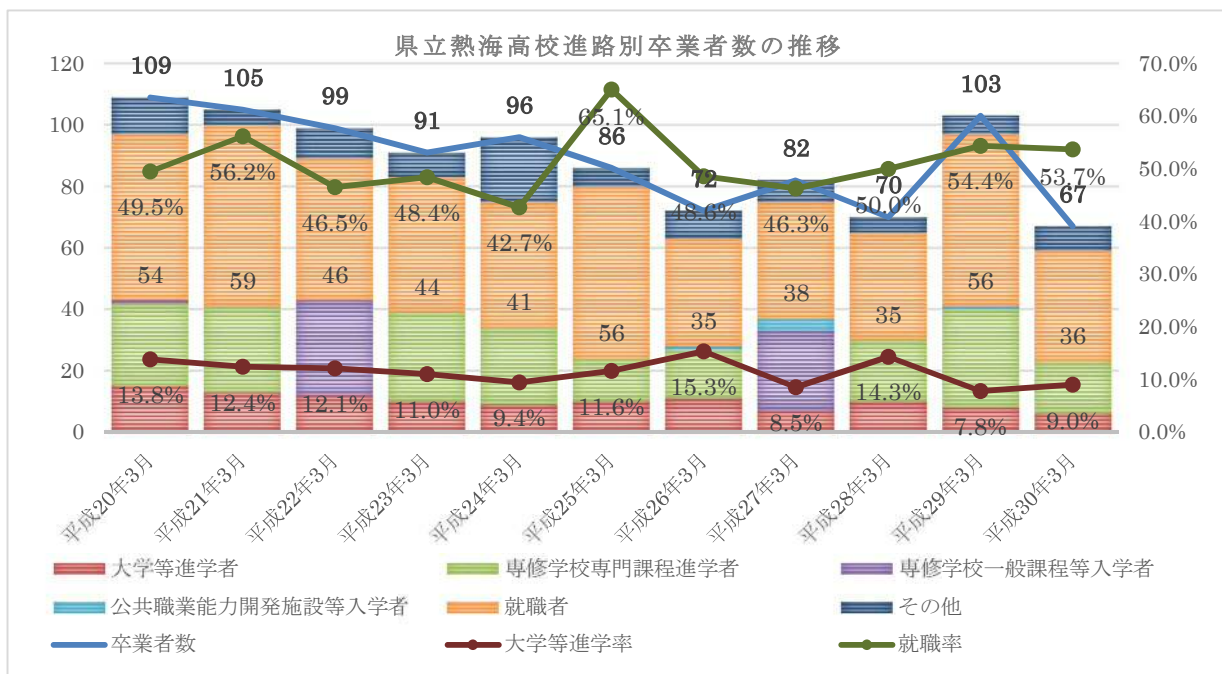
■ 毎年度実施している学校基本調査に基づく、中学校卒業生の進傾向については、

資料 3

高等学校等への進学者がほぼ 100%で推移している。また、ここ数年私立高校への進学が増加傾向にある。



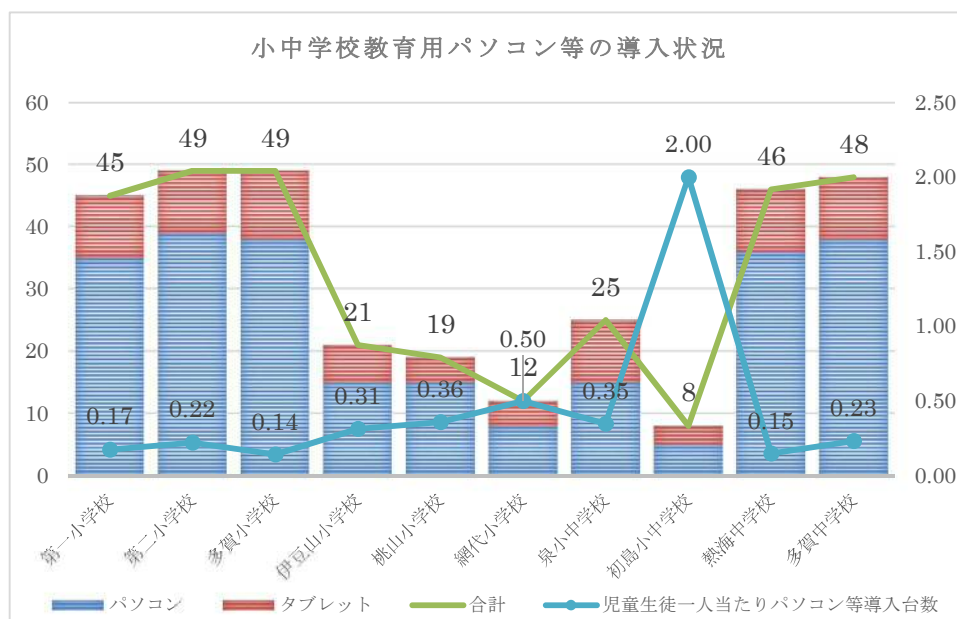
(参考：県立熱海高校進路別卒業生数)



(15) 小中学校教育用パソコン等の導入状況

■ 小中学校における教育用パソコン等の導入については、平成 25 年度以降順次、各校に整備している。また、タブレット端末については、平成 28 年度に全校に

整備した。



(16) 教育・生涯学習に関する世論調査（平成30年7月内閣府調査）

「生涯学習の状況」「大学などにおける社会人の学習に関する考え方について」「地域や社会での活動に対する考え方について」を調査項目に18歳以上3,000人に対して実施された調査結果の主なものは次のとおり。

(結果概要)

この1年間に何らかの学習を行った人の割合は全体の58.4%、「したことがない」と答えた人は41.3%だった。していない人に理由を複数回答で尋ねたところ、「特に必要がない」が31.1%となり、比較可能な2012年7月調査での9.6%から大幅に増加した。

していない理由では、「仕事が忙しくて時間がない」が33.4%で最多。このほか、「きっかけがつかめない」(15.8%)、「家事・育児・介護などが忙しくて時間がない」(15.0%)となった。

学習をした人に理由を尋ねたところ、「教養を深めるため」(37.1%)、「人生を豊かにするため」(36.2%)の順。次いで多かった「仕事で必要性を感じたため」(32.7%)は、30～50代では最も多かった。

■ 1年間の学習形式

学習形式	割合
学習したことがある	58.4%
（インターネット）	（22.6%）
（職場の教育、研修）	（21.5%）
（自宅での学習活動（書籍など））	（17.8%）
（テレビやラジオ）	（14.5%）
（図書館、博物館、美術館）	（13.8%）
学習したことがない	41.3%

■ 学習をした理由（複数回答）

理 由	割合
教養を深めるため	37.1%
人生を豊かにするため	36.2%
仕事において必要性を感じたため	32.7%
家庭や日常に生かすため	32.1%
健康の維持増進のため	29.9%

■ 学習をしない理由（複数回答）

理 由	割合
仕事が忙しくて時間がない	33.4%
特に必要がない	31.1%
きっかけがつかめない	15.8%
家事、育児、介護などが忙しくて時間がない	15.0%

■ 今後学習したい内容（複数回答）

学習形式	割合
学習したい	82.3%
（趣味的なもの（音楽、美術、華道、舞踊等））	（39.3%）
（健康、スポーツ（健康法、医学、水泳等））	（34.0%）
（職業上必要な知識（知識習得、資格取得））	（31.1%）
（家庭生活に役立つ技能（料理、洋裁、等））	（23.4%）
（教養的なもの（文学、歴史、科学等））	（22.6%）
学習したいとは思わない	10.8%

■ 講座の提供場所（学習しやすい場所）（複数回答）

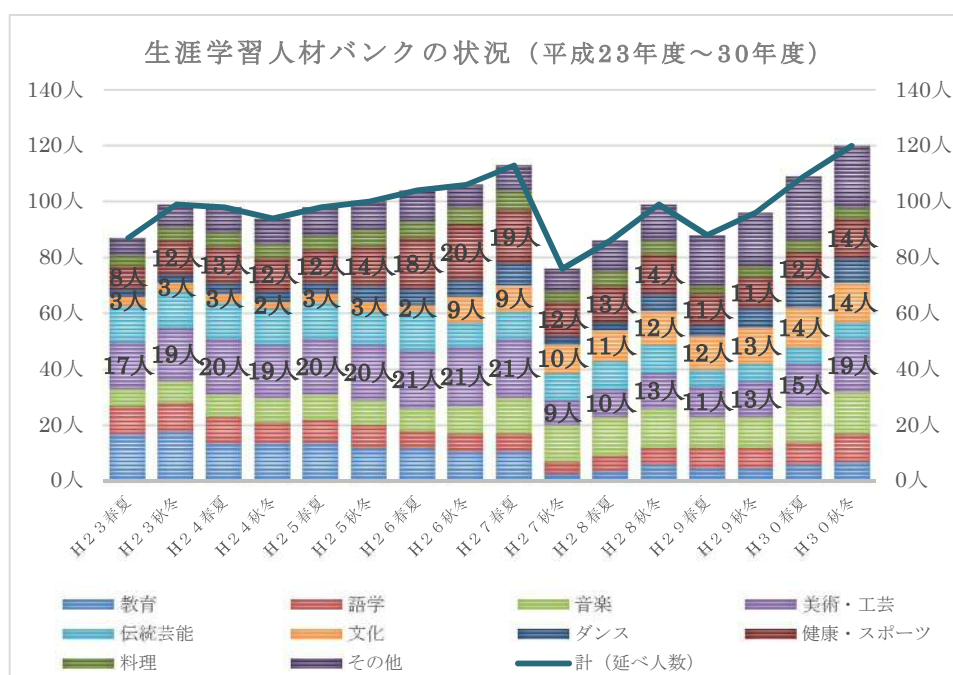
理 由	割合
図書館や公民館などの社会教育施設	45.4%
インターネット	45.3%
大学などの校舎	27.9%
駅など公共交通機関の施設と同じ建物	21.7%
会社などの勤務先	20.4%

■ 地域社会での活動への参加意欲

理 由	割合
参加してみたい	79.9%
(スポーツ、文化活動)	(26.9%)
(子どものためのレク活動、自然体験活動)	(22.1%)
(防犯、防災活動)	(20.7%)
(子育て、育児支援活動)	(19.8%)
(環境保全に関する活動)	(18.7%)
(伝統行事、歴史継承に関する活動)	(17.5%)
(観光、産業の活性化に貢献する活動)	(17.5%)
(障害者、高齢者、外国人住民支援活動)	(17.2%)
(学校の環境整備や教育活動支援)	(15.6%)
参加したいとは思わない	16.7%

(17) 生涯学習人材バンクの状況

平成 23 年度以降における生涯学習人材バンクの категория及び人材登録数の状況は、10 種、100 名前後で推移している。バンクの特徴としては、文化系、健康スポーツ系の登録が多くなっている。



資料 3

(18) 生涯学習人材バンク等の利用実績

(複数回市民教室)

教室名	H24	延べ	H25	延べ	教室名	H26	延べ	H27	延べ	教室名	H28	延べ	教室名	H29	延べ	教室名	H30	延べ
ペン字	17	102	22	132	スマイルスマート	15	90	22	132	香道	14	102	ウクレレ	13	86	俳句を楽しもう	2	16
パッチワーク	20	120	17	102	香道	20	120	17	102	食器に絵付け	0	0	骨盤ダイエット	8	56	卓球で脳活性	3	24
3B体操	13	78	9	54	水彩画	15	90	9	54	押し花	2	16	吟詠	6	39	寸劇をやってみよう	4	32
日本舞踊	13	78	10	60	布きり絵	9	54	10	60	ロコモ	8	60	シャンソン	14	95	Let's オカリナ	2	16
写真	12	72	8	48	トールペイント	7	42	8	48	ウクレレ	14	110	太極拳	20	117	パークッションバンド	4	32
オカリナ	24	144	11	66	フラメンコ	10	60	11	66	仏像	8	60	押し花	3	21	フレッシュ3B体操	2	16
ヨガ	23	138	21	126	ウクレレ	14	84	21	126	スマイルスマート	10	72	フラダンス	13	90	社交ダンス	16	128
お菓子づくり	13	78	11	66	詩吟	14	84	11	66	フラダンス	6	48	書道	13	84	初めての手描きパティッシュ	9	72
ハーモニカ	24	144	11	66	仏像彫刻	20	120	11	66	シャンソン	24	182	水彩画	12	81	選んだ色で自分を知らう	3	24
ベリーダンス	12	72	10	60	日本のお茶を楽しむ	9	54	10	60	吟詠	15	110	Let's enjoy English	13	158	茶道を楽しむ	13	104
水彩画	16	96	19	114	写真俳句	10	60	19	114	色鉛筆	14	98	エッセイ	24	163	きれいに歩く魅せるウォーキング	24	192
社交ダンス	13	78	14	84	脳リフレッシュ	18	108	14	84	はがき	4	25	絵手紙	20	120	Let's enjoy English	12	96
押し花	10	60	11	66	ワイヤークラフト	2	12	11	66	書道	15	106	食器に絵付け	4	31	手足ツボ健康法	20	160
気功と太極拳	21	126	23	138	ゴムバンド運動	13	78	23	138	太極拳	17	130	パッチワーク	6	46	整理収納術	10	80
合計	231	1,386	197	1,182	家庭料理	16	96	11	66	水彩画	12	88	発酵食	8	38	「赤毛のアン」で英会話	24	192
					社交ダンス	28	168	23	138	パッチワーク	8	60						
					合計	220	1,320	231	1,386	合計	151	1,119	合計	177	1,225	合計	148	1,184

(1日市民教室)

H28

1日講座	定員	受講者数(人)
アロマクラフト	8	6
おもてなし料理教室	10	11
ボールペン字教室	10	9
写真教室	15	7
小論文	10	6
合計	53	39

H29

1日市民教室	定員	受講者数(人)
ハーブティ&ヘルスケア	15	13
ウォーキング	15	13
お片づけ	15	7
生き方	15	12
男の料理	20	9
石鹸	15	8
小論文	15	5
合計	110	67

H30

1日市民教室	定員	受講者数(人)
色彩コミュニケーション	20	16
グラデーションネイル	10	8
小論文	15	今後募集
男の料理	20	今後募集
桃の節句の手芸	15	今後募集
合計	80	24

(市民大学講座)

平成22年度 市民大学応募状況

春	定員(人)	受講人数(人)
戦後政治	50	45
気象学	50	64
シェイクスピア	50	55
近代絵画	50	49
万葉集	50	55

平成23年度 市民大学応募状況

春	定員(人)	受講人数(人)
シェイクスピアの世界	50	42
「万葉集」を散策する	50	53
健康になるための温泉	50	37
純文学と大衆文学の歴史	50	42

平成24年度 市民大学応募状況

春	定員(人)	受講人数(人)
歌でつづるロシア小史	50	40
テレビ文化の60年	50	27
現代社会を生きる知恵	50	56
伊豆・熱海の自然学	50	38

平成25年度 市民大学応募状況

春	定員(人)	受講人数(人)
伊豆山からみた中世世界	50	51
日本の外交	50	43
ニュースの核心	50	34
古典文学	50	41
富士山学	50	28

資料3

平成26年度 市民大学応募状況

春	定員(人)	受講人数(人)
史料に熱海を読み解く	50	51
文学に読む日本人の心	50	45
ニュースの核心にせまる	50	45
世界遺産	50	53
クラシック音楽を楽しもう	50	37

平成27年度 市民大学応募状況

春	定員(人)	受講人数(人)
内から見たテレビ報道	50	48
薬の考現学	50	50
竹取物語を楽しむ	50	55
世界遺産	50	57
クラシックの楽しみ再発見	50	47

平成28年度 市民大学応募状況

春	定員(人)	受講人数(人)
内から見たテレビ報道	50	52
日本の歴史100年	50	60
昭和の歌謡史	50	61
竹取物語を楽しむ	50	42
世界の美術館	50	42

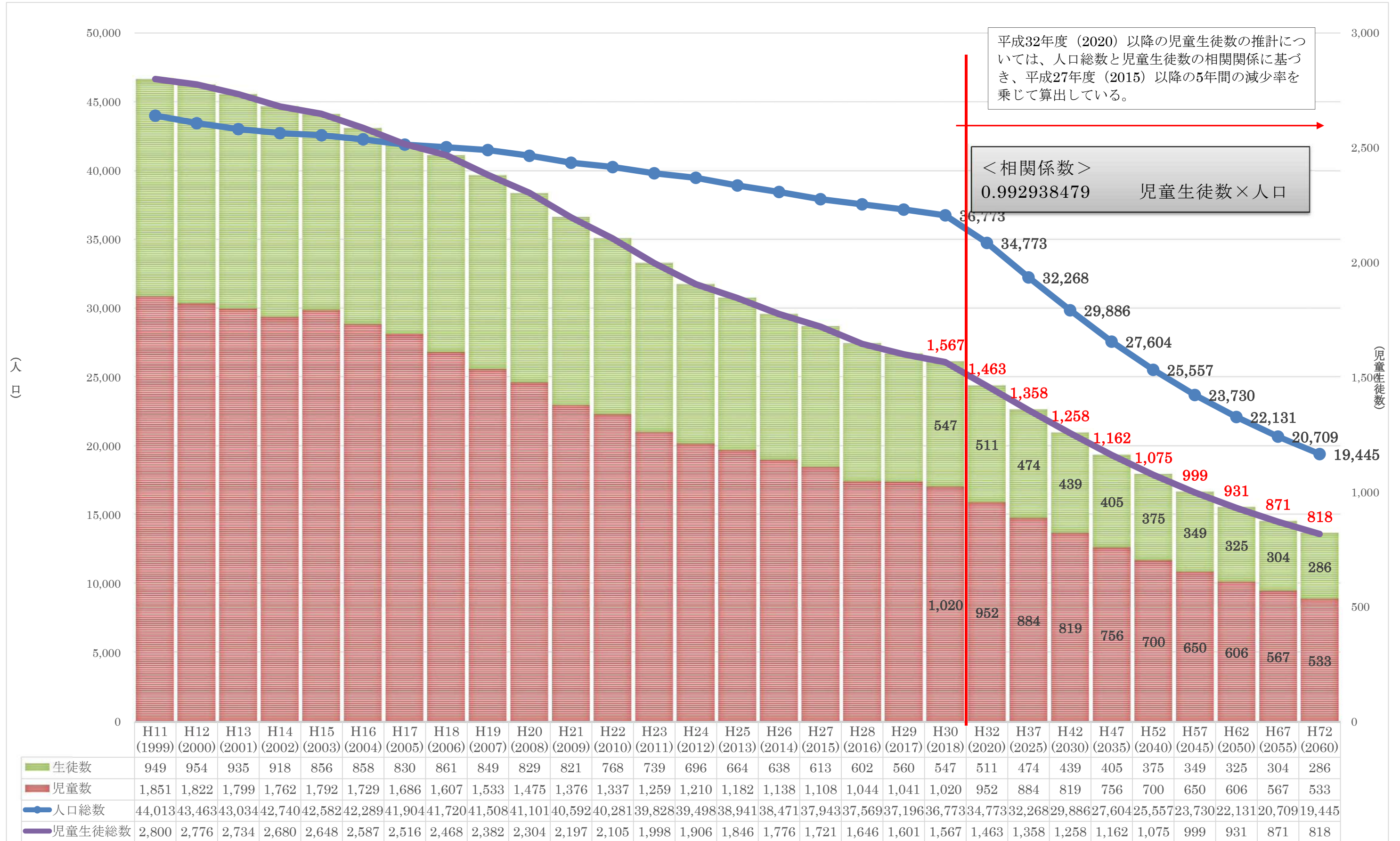
平成29年度 市民大学応募状況

春	定員(人)	受講者(人)
時事解説	50	60
日本の歴史100年	50	52
昭和の歌謡史	50	60
古事記の神話を楽しむ	50	60
世界の美術館	50	55

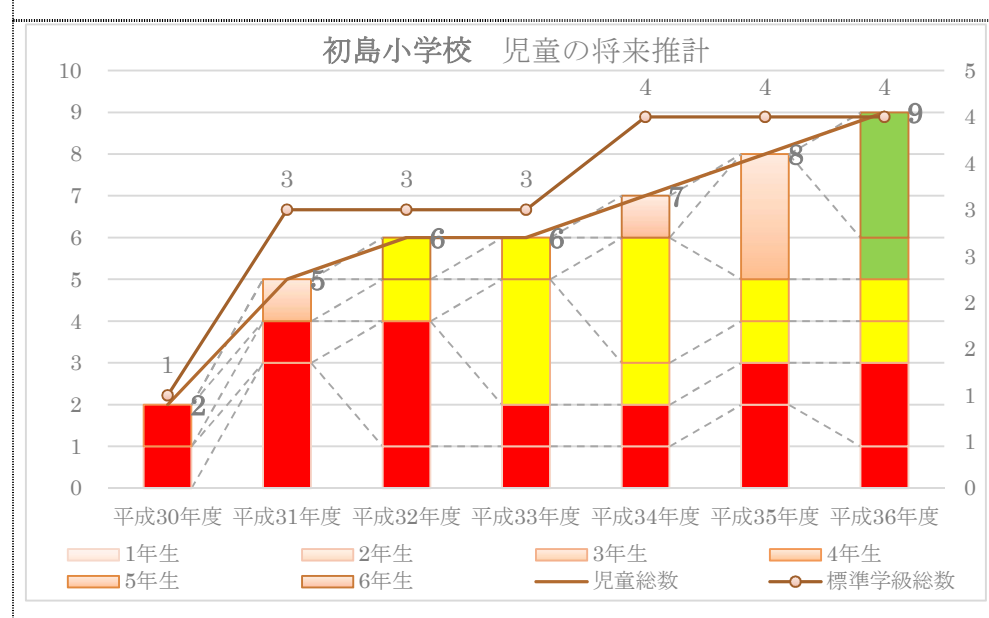
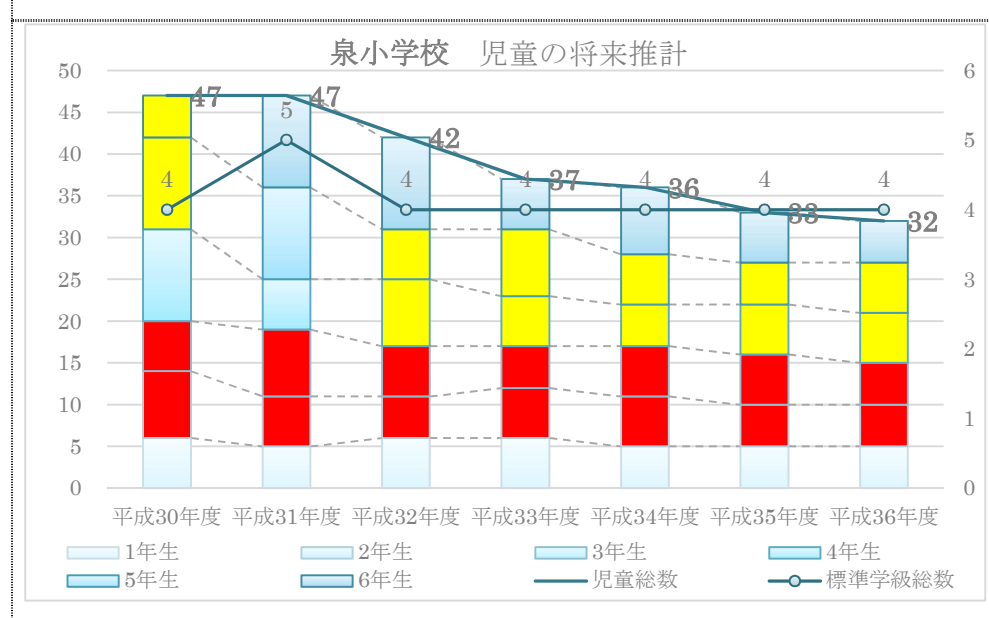
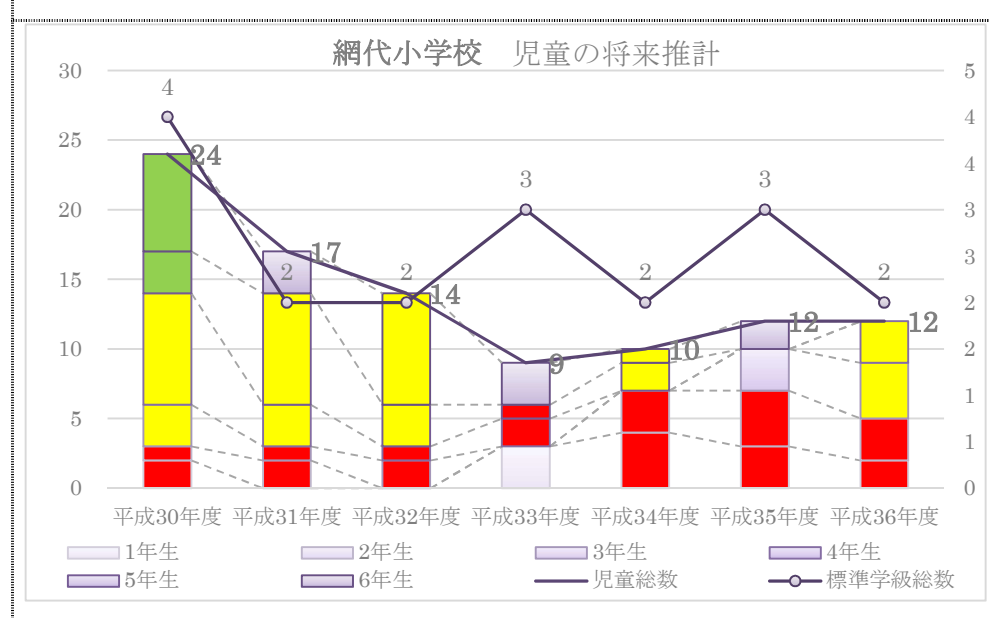
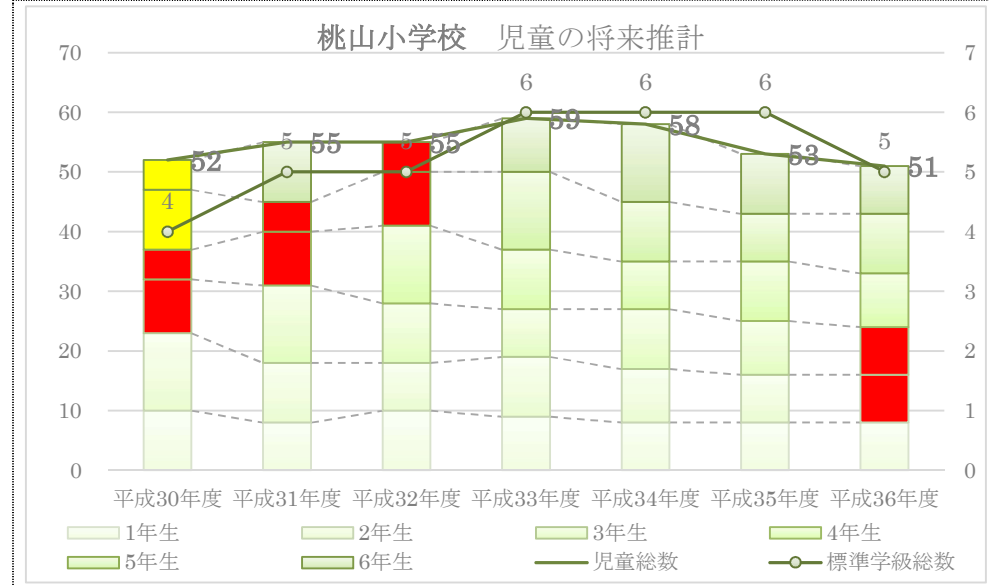
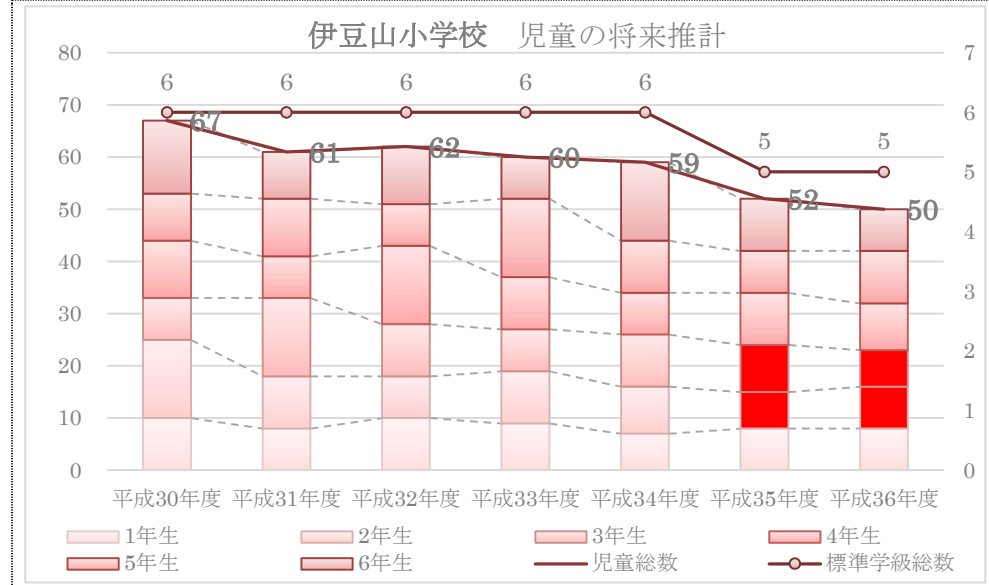
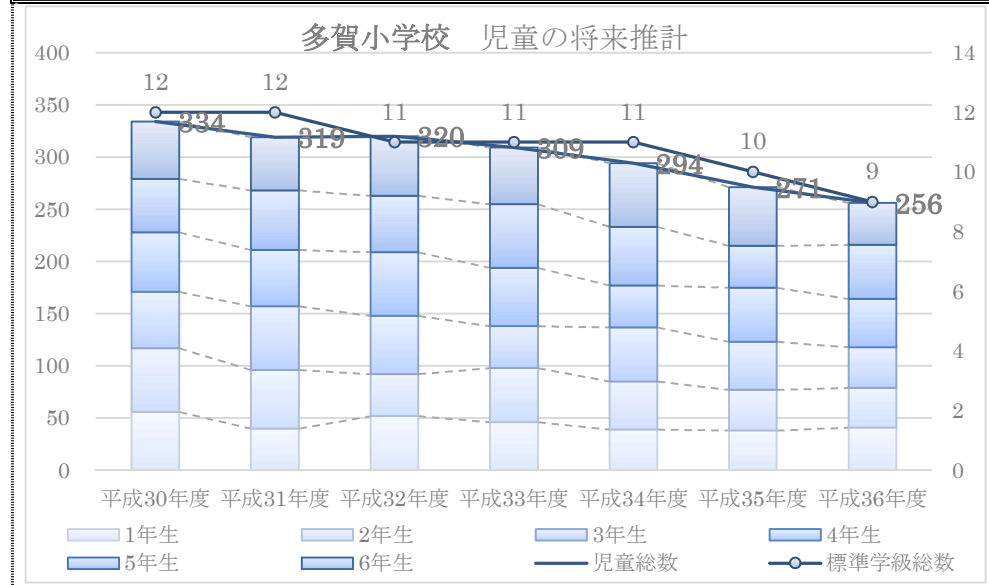
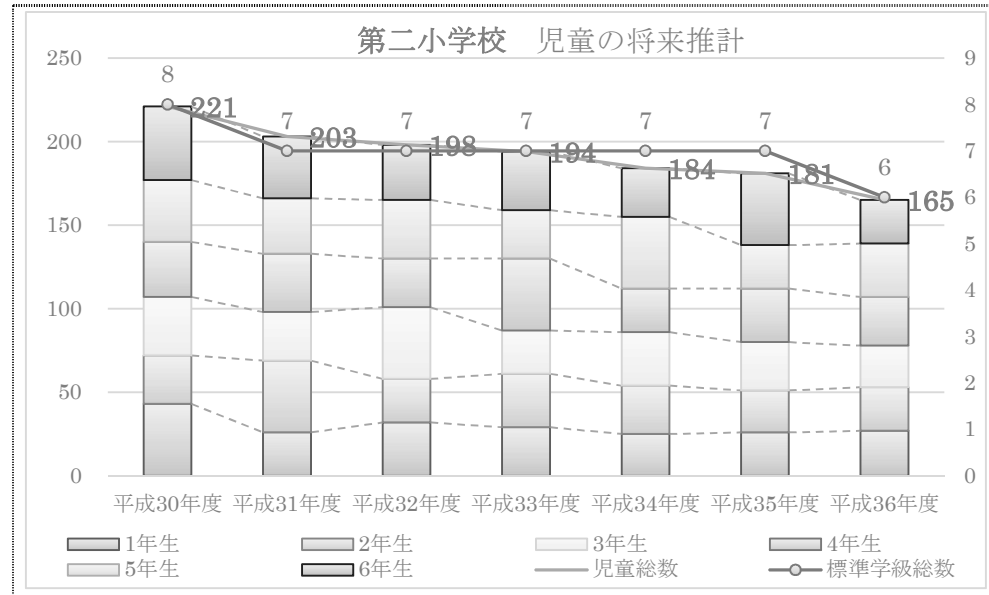
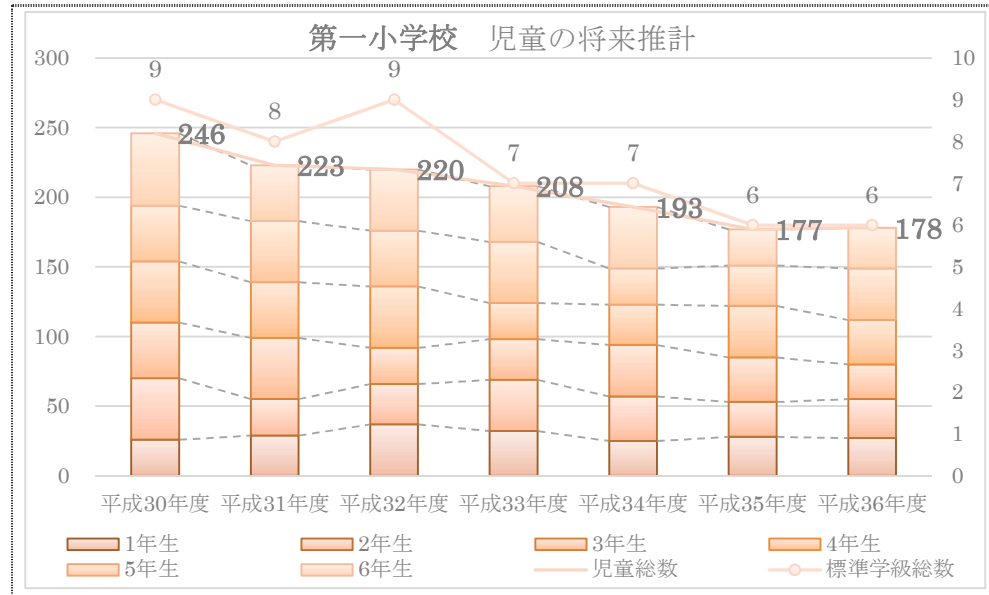
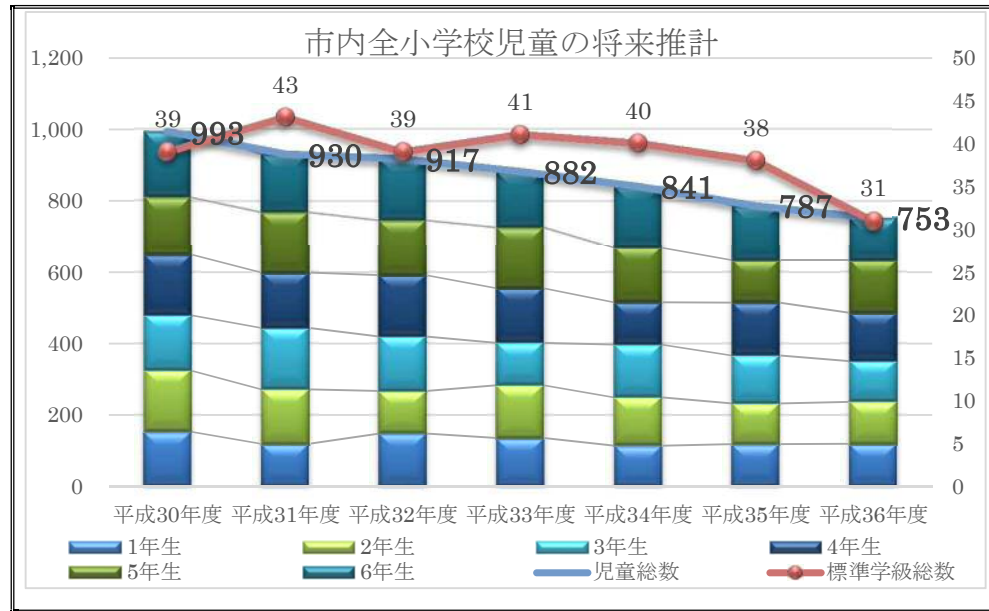
平成30年度 市民大学応募状況

講座名	定員(人)	受講者数(人)
熱海の「今」を知る	50	62
アジアを学ぶ～併せて時事解説～	50	62
歌謡史再考	50	57
古事記の神話を楽しむ	50	64
海外旅行を楽しもう	50	37

【熱海市人口ビジョンに基づく児童生徒数の将来推計】



【学校数、児童数・生徒数及び標準学級数等の調査に基づく児童生徒数、学級数の推計（小学校別普通学級）（赤・黄・緑（表記：複式学級））】



【学校数、児童数・生徒数及び標準学級数等の調査に基づく児童生徒数、学級数の推計（中学校別普通学級）（赤（表記：複式学級））】

